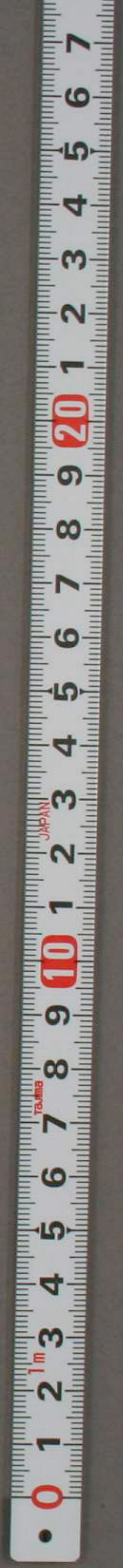


攝津名所圖會

豐島郡
河邊郡
六上

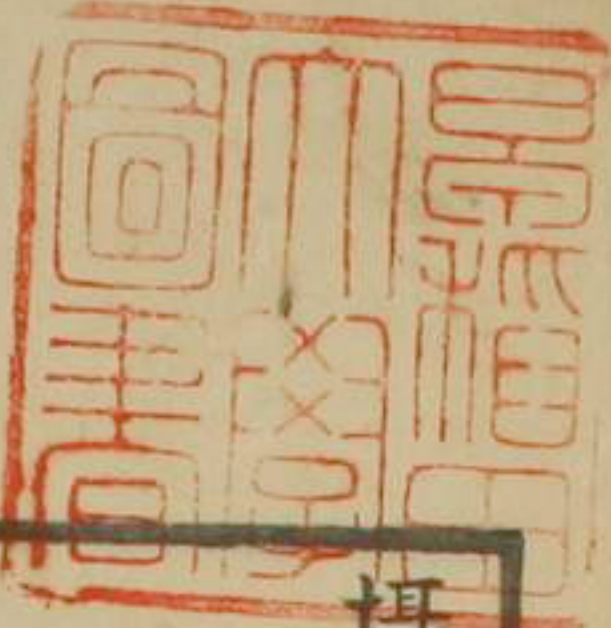
ル 4
3651
7



攝津名所圖會卷之六目錄

豐嶋郡

櫻橋	秀命寺	緒懸松	吳織神社	猪名笠原	陽松菴	寺尾十軒	龍女祠	石積瀧	唐人虎巖	箕面山	鎮守社	白龍石	唐上嶽
小蟹川	高法寺	織殿古蹟	穴織神社	猪名海	為那都比古神社	安谷螢	安谷螢	久安寺	箕面富	鏡若堂	丹行若堂	舟	舟
梅忠臺	池田古城	星御門	唐船洞	猪名浦	菅野之平墓	二王門	二王門	細河神社	如意輪寺	箕面瀧	舟	舟	舟
五月山	荒木持津守墓	梅室媛室	深殿井	池田	安倍晴明墳	名產種樹	名產種樹	名產種樹	止々呂美古城	龍穴	龍穴	龍穴	龍穴



京伊澤文次郎彫

昭和七年
十月三日購求

佐伯山 佐伯山
 有岡古城 有岡古城
 牛頭天王 牛頭天王
 亞波山 亞波山
 瀨川清水 瀨川清水
 和泉云部塔 和泉云部塔
 仰眼寺 仰眼寺
 天竺川 天竺川
 櫻井春日神祠 櫻井春日神祠
 長柄橋柱 長柄橋柱
 多田院 多田院
 未本社殿
 何邊郡 何邊郡
 多田川 多田川
 神廟
 鼓子籠 鼓子籠
 沙羅林山 沙羅林山
 小童寺 小童寺
 多田莊平野温泉 多田莊平野温泉
 潮井 潮井
 普門寺 普門寺
 裏屋風岩 裏屋風岩
 大舟山 大舟山
 壺蘆石 壺蘆石
 法善塔 法善塔
 仲光塔 仲光塔
 平居山権現蹟 平居山権現蹟
 四氏舊屋 四氏舊屋
 山本善大寺白屋 山本善大寺白屋
 本接寺白屋 本接寺白屋
 山本窟 山本窟
 中山寺 中山寺
 本堂
 鏡橋 鏡橋
 札納酌 札納酌
 二王門 二王門
 疱瘡神 疱瘡神
 惠日菴 惠日菴
 土塚石 土塚石
 大廣寺 大廣寺
 猪名川 猪名川
 住吉祠 住吉祠
 為奈祠 為奈祠
 存慶鏡水 存慶鏡水
 千里川 千里川
 阿比大神社 阿比大神社
 原田神祠 原田神祠
 名産椋椏某服 名産椋椏某服
 三國川 三國川
 牡丹花田蹟 牡丹花田蹟
 釋迦院 釋迦院
 待兼川 待兼川
 七門井 七門井
 菅原峰嗣山莊 菅原峰嗣山莊
 寶珠寺 寶珠寺
 豐鳥牧 豐鳥牧
 南郷春日神祠 南郷春日神祠
 岳水神社 岳水神社
 正堂
 青面金剛祠
 本北堂
 本供所
 六所社
 石天
 石天
 中門
 旗指山 旗指山
 權六堂 權六堂

新田古城 新田古城
 光遍寺 光遍寺
 多田莊平野温泉 多田莊平野温泉
 小童寺 小童寺
 美文九塔 美文九塔
 平井保昌塔 平井保昌塔
 源綱塔 源綱塔
 一庫湯 一庫湯
 名産一庫炭 名産一庫炭
 屏風巖 屏風巖
 波豆川 波豆川
 馬蹄七ツ岩 馬蹄七ツ岩
 常行堂 常行堂
 觀音堂 觀音堂
 足形石 足形石
 仲光家 仲光家
 大池 大池
 藥師堂 藥師堂
 地藏堂 地藏堂
 太子堂 太子堂
 食堂 食堂
 白鳥窟 白鳥窟
 弁天祠 弁天祠
 護摩堂 護摩堂
 愛宕祠 愛宕祠
 小隨卷 小隨卷
 本社 本社
 獨銚尾別所院 獨銚尾別所院
 跡 跡
 九頭神祠 九頭神祠
 日巫山 日巫山
 仲光塔 仲光塔
 原綱塔 原綱塔
 源綱塔 源綱塔
 名産一庫炭 名産一庫炭
 屏風巖 屏風巖
 波豆川 波豆川
 馬蹄七ツ岩 馬蹄七ツ岩
 常行堂 常行堂
 觀音堂 觀音堂
 足形石 足形石
 仲光家 仲光家
 大池 大池
 藥師堂 藥師堂
 地藏堂 地藏堂
 太子堂 太子堂
 食堂 食堂
 白鳥窟 白鳥窟
 弁天祠 弁天祠
 護摩堂 護摩堂
 愛宕祠 愛宕祠
 小隨卷 小隨卷
 本社 本社
 獨銚尾別所院 獨銚尾別所院
 跡 跡

清澄寺 本堂 影向神 清荒神祠 加持水

寶家 寶家 川面神祠 小濱驛

奥村正信屋 八尾福村屋 慈玄院 法仙寺

毫攝寺 見佐神祠 鳴比 慈眼寺 鎮守八幡宮

崩野 小戸神社 安倉 觀音寺

昆陽野 昆陽浦 昆陽寺 本堂 洞山堂 大日堂

禮拜石 荒本自然塔 猪名權現 荒府比

過碑 伊丹 和泉式部塔 玄林寺旧蹟

荒本攝津古城 墨深寺 野宮牛頭天王 金剛清水

猪名並原 猪名寺 寶家 為朝八幡

宇塚 食備家 猪名家 佐伯家

萬古王墓 琵琶家 落馬家 御願家

高師直塚 火焰王廟 浮光房紅葉 石明寺

白井天王 武田勝親墓 伊佐具神社 正玄寺

茨木童子出生地 冬知妙見堂 潮江 吉備津祠

神崎川 神崎波口 神茶松原 遊女宮城墓

長洲 長洲天神 浦初岩 大物宮

娘岩 大物浦 判官後旅宿 尼崎城

尼崎屋松 本興寺 廣德寺 法園寺

芦刈島 栖賢寺 海峯寺 大覺寺

如來院 耳落寺 貴布禰祠 仲の火

祝津宮古蹟 難波村梅 名月岩塔 蘆川

浪速灘

箕面山
看丹楓

拾遺
あつた
みゆき
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ

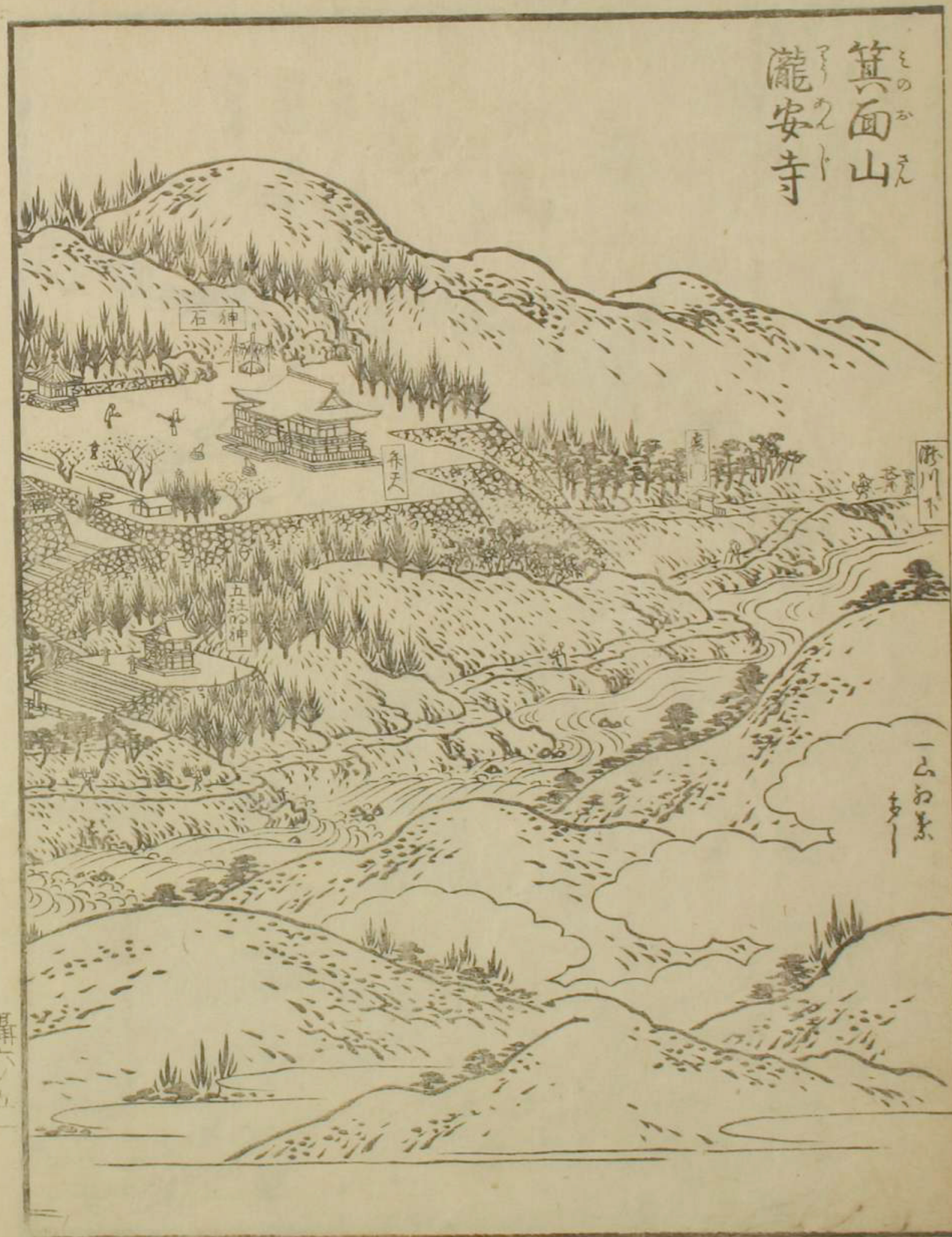
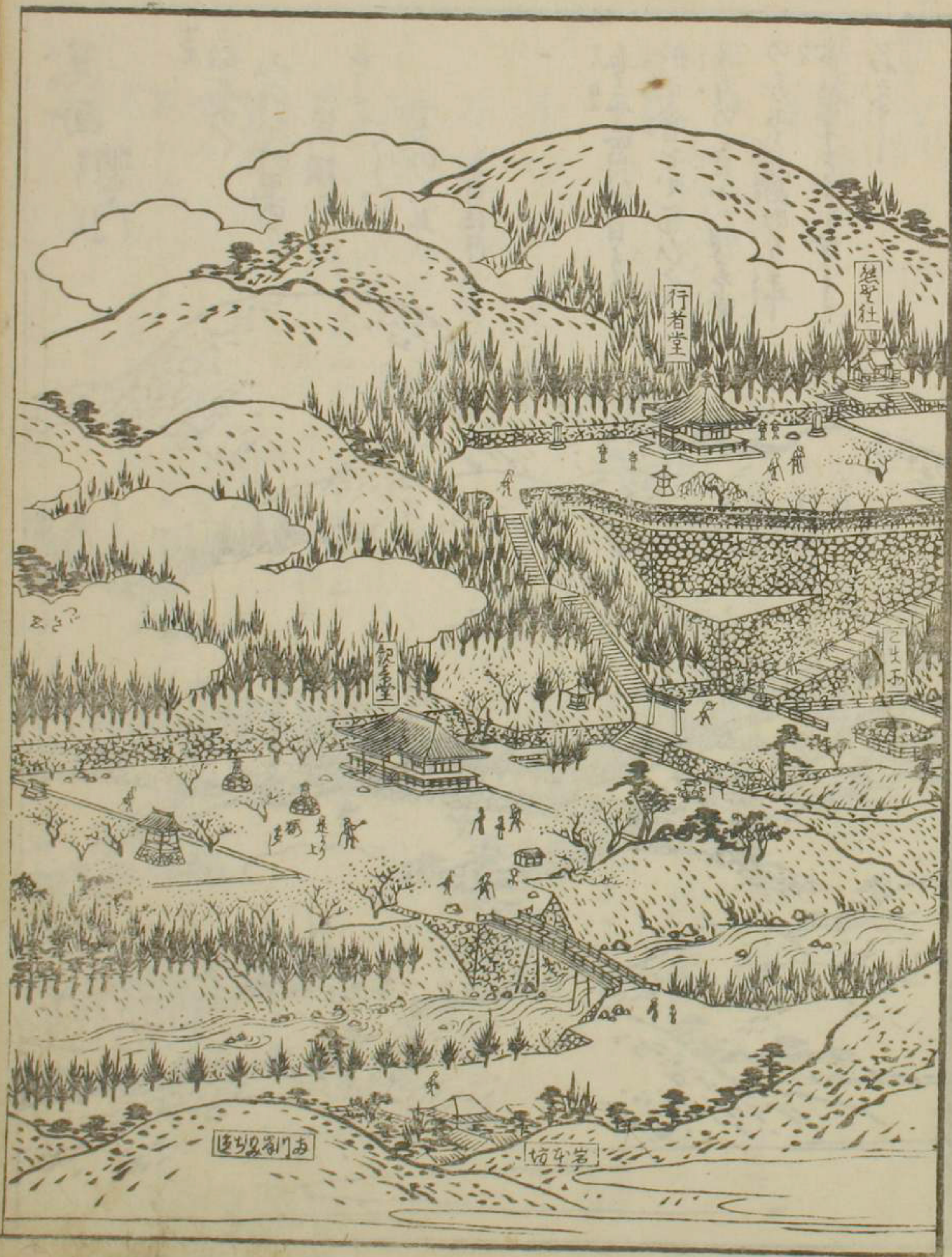


新古今
 おみやぎ
 おまゝの
 ぬらなれと
 うれし
 小と
 山川の
 水
 二條院
 横伎



みのかみんいちのくろか
 箕面山一巻居
 聖天宮





豊嶋郡

豊嶋郡 東へ橋下郡の界あり西へ河内郡の界あり南へ西成郡の界あり北へ紀伊郡の界あり

箕面山麓安寺吉祥院 箕面山にあり天台修験道 聖護院小属次

支本

あまのくみのおれ里の菜垣ふもろくもろ乃聲

支本

みのたやばまねつくばの唐の唐の松のむねも枕のむね

支本

本社大辨財文女 役行者の他長き尺寸許日本四所在の其一あり

支本

鎮守 五社明神 然聖之所権現 室荒神 神水 行者堂 役優婆塞自他

支本

箕面麓 本社より十八町奥の麓にあり 龍の首二と次 瀑の上 碧潭あり 龍穴といふ 村民早之

支本

青雨降るとを 仁和寺は親王 賢性

箕面 惣門

あまのく

みのおれ里の

菜垣ふ

あまのく

あまのく

あまのく

毎年正月朔日より 修正會とてあまのく 満座の七日は親善堂 のあまのく富あり年 古た事とて世に 名あり



攝六六

箕面籠

日照香爐生紫烟，
遙看瀑布掛長川，
飛流直下三千尺，
疑是銀河落九天。

李白



補六七

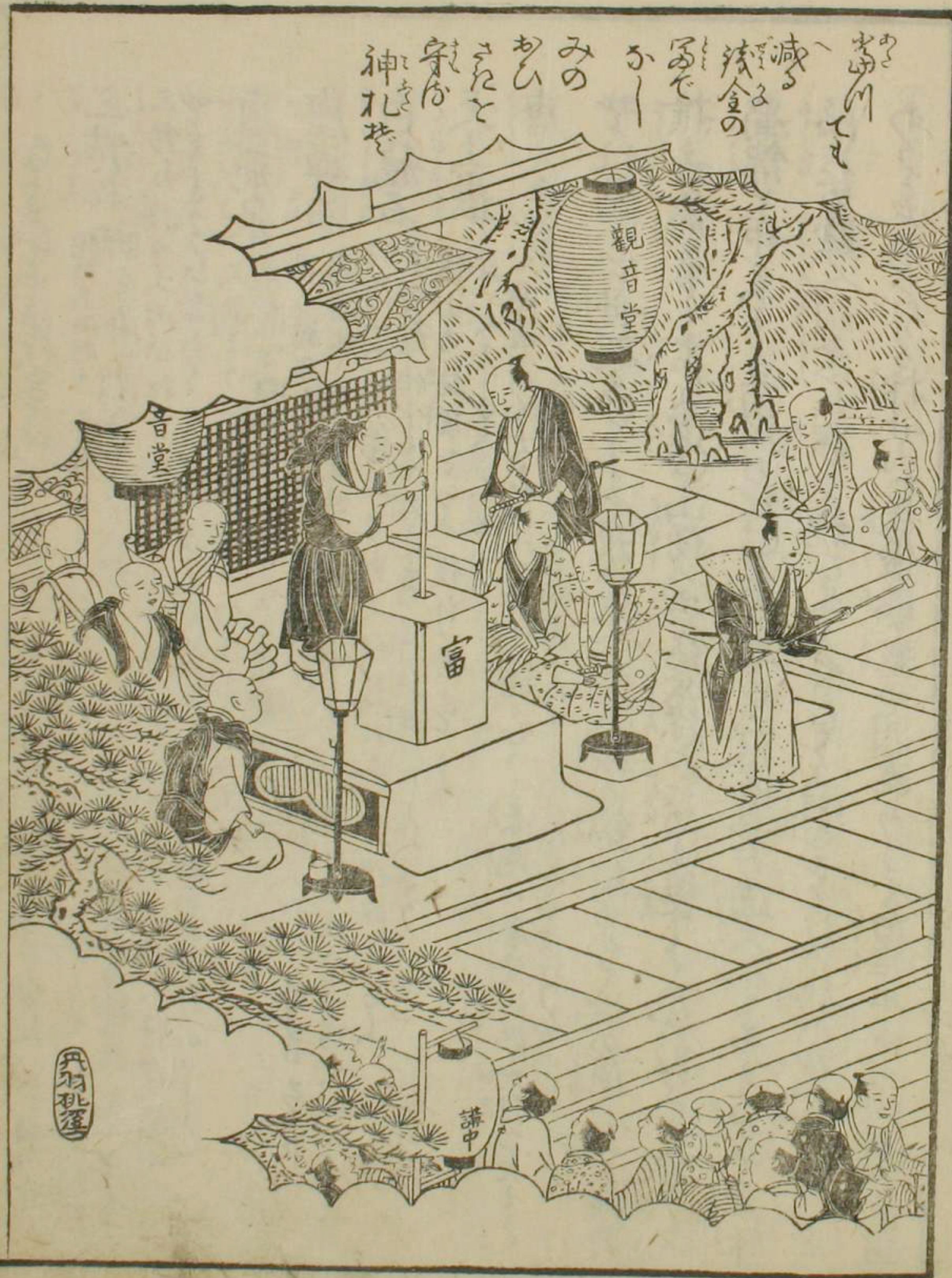


嵯長明

勝尾乃

緑菴
ふた
みおれ
松戸の
たけ
床の香
そら

おのり
減る
法金の
ふり
み
おの
さた
家
神礼
て



正月七日
箕面富



ふるまてを思ふ所の流は山をふたつにわかれ流とあるゆは 後九条

三結松 腕の上あり三葉あり如し其色四時蒼々として豊しく勝水に流る

三結松 映る所の光あり故に一名三光松と云ふ又役り者葛城の翠嶺

龍穴 三結松の側あり岩窟方三丈許深淵小

奥飛泉 大龍と雌龍とつひまはる雄飛と云ふ

座禪石 眞の腕の上あり 錫杖石 日新ありり者きり

白龍石 日新あり 嵩山并財天白龍に系し依臨しあり

天上嶽 嵩山の絶頂と云ふ 役り者きり

唐人虎巖 峨道あり大岩あり 役路中遮るむ 奉朝の唐使は勝比致るたとく

せれせ二山丹楓多くて秋の末にその樹を錦繡の如く腕の流に紅と濯れ

推す錦着く家も還る山傍の流は深ね紅の色艶しく風がけりるを

蜀錦と布とあり立田川の杖は高雄のふは夕白のげ通大橋もあまきて系師

流花の騷人相業は流る競ひある七月より附るる流の極ひ楚家もあま

わくとも思われり抑せの役優婆塞の因基あり白雉年中の創建東西

の山峯嶽々として两部の曼荼羅と表し南水の翠巖峻々として不二の

尊躰と頭は瀧水の長流萬頃の田園と潤ひ嘗て飛泉の巖石は見ゆ

左右高峙り流頭も亦爾々南方馳下り流と滴をめぐり其形算の西に

ゆ故に名をたけいりては地小諸堂魏々として兵乱小懼る荒蕪の後廢長年中

今の地は移次本社存財と云ふ 後水尾帝の御建立の勅と下りて南基役

小角へ和州葛城上郡荊原郷の人々ありて敏悟特質殊に佛系小帰し年

三十二ありて葛城山入巖窟居りて中平午修養藤葛瓜食りて松果瓜

喰ひ孔雀明王の咒と持て五色の雲を駕し仙府を遊ひ鬼神を驅逐して使令

て日域の多産區と傳歴する事殆遍し一日葛城より乾の方を望み見る瓜見

ゆひ一の三結瓜枚りて遠き中み入つて其面は龍頭の如くわたり尋行者は地不

至り更老翁忽焉として現し水源の勝窟を存禪しわらわ法ありのきりて云終

てわかく去り者その教の如く龍宮城に入其時龍樹菩薩ありり者てあま待事

久しは勝地を津土に存財と云ふ法と擁護しゆ余り早あまを新瓜安量度

登杖業の密法水く不退轉かろくそ深秘の大法志部の密會よりく
 授中の者存心一業をとりて存心の者徳を刻と建平より其後大峰
 窟開のりて之を川もい存財を勧導し故に山女女の峰を祿とる
 聖之尊も初出現の靈地之室見許もあ初現の名區之胎室部の守者大日熾
 明王熾瓔珞龍等の秘法の開伽年ありて眞珠勝處蹟之代々の 帝も詔
 降して寶祚延長と稱す時臨々り存の例多しとを聞たり 帝も詔
 箕面富 脩正會より毎年正月朔日より七日の間天下安全五穀豐饒の祈禱あり七日は満座
 入觀者堂の希み居く大木澤々しく寺僧王禪とてけく夜の社名をけ維やく小孔より
 秘法の作宗と授くまはる得るの忍幸ましく眞寶家みたる蓋驗ありといひけ
 法令の諸國よりまうく自然不富の神れと得るの道中より宿世友友通して居る
 され福富作(教)さるの風俗へ又は富の的なるもの金細に授く目的の者
 林札と穿くといふ二月朔日より三日まで依二舎とて官密より存
 賜し仰めり 存財天倉福鬼神の垂跡ありて福高明林へは富會と平
 ふらた半まうく存財不富実山と稱して居る事あり
 本
 君代富実山のさくくさくさくはさかよ河代まうくた 兼清
 如意輪寺 如意谷村ありて眞言宗本寺如意輪觀音弘法大師の化六月十八日法會
 鎮守ま日祠は所の生主神とて又慈悲教向石あり

止々呂美古城 上さるる長多田滿改の裔林馬場信高の古城今ふ苗孫は郷中小
 石積瀧 泰ふふめり石積連々相ゆる泰山のふまふ倉松三樹あり遠境より
 大澤山之安寺 安養院 伏尾村ありて古義眞言宗
 本尊十一面觀世音 定朝の化 南山の基僧正 中興賢實上人
 護摩堂 不初多ふ 阿弥陀堂 阿弥陀如来
 佛敎堂 弘法大師像あり 鎮守白山権現 白山地之神
 薬師堂 瑠璃光佛あり 荒神社 白山伽藍神
 赤萱池 本堂の赤ふあり四神相應の 若女龍王社 赤萱池の
 赤財天社 赤萱池の中嶋ありて赤神倉稻意神恒御より毎年
 赤川の後 赤王宝印ありて正月七日富の法會ありけ日蓮降乃
 村民群衆より福財と稱すあり
 二王門 金剛力士の二天と安に 勅額 久安妻 道徳者の宸翰あり
 運慶の化
 運川 二王門の赤の川とて 子代橋 運川の橋ありて久安の二字
 由縁ありて記あり
 觀音石 本殿の西ふありて保延六年泥堂圓禪の時火中へ飛出け石上より
 光輝ありて故に一名光明石とて云

車籠 あふの東二町許あり 云武嶽 あふの北

大満宮 由致寺説に詳し あふの守護神とて又丘山に基原山とて

小鶴庭 あふ山中あり あふの守護神とて又丘山に基原山とて

菩提寺 あふ代務の南あり あふの子院

慈恩寺 あふ山より八町轄の方あり あふの守護神とて又丘山に基原山とて

寺尾千軒 あふの伏見村の一軒あり あふの守護神とて又丘山に基原山とて

連理庵 あふの山内あり あふの守護神とて又丘山に基原山とて

安谷堂見 あふの山内あり あふの守護神とて又丘山に基原山とて

水槽清水 あふの山内あり あふの守護神とて又丘山に基原山とて

愛宕祠 あふの山内あり あふの守護神とて又丘山に基原山とて

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

あふの山内あり

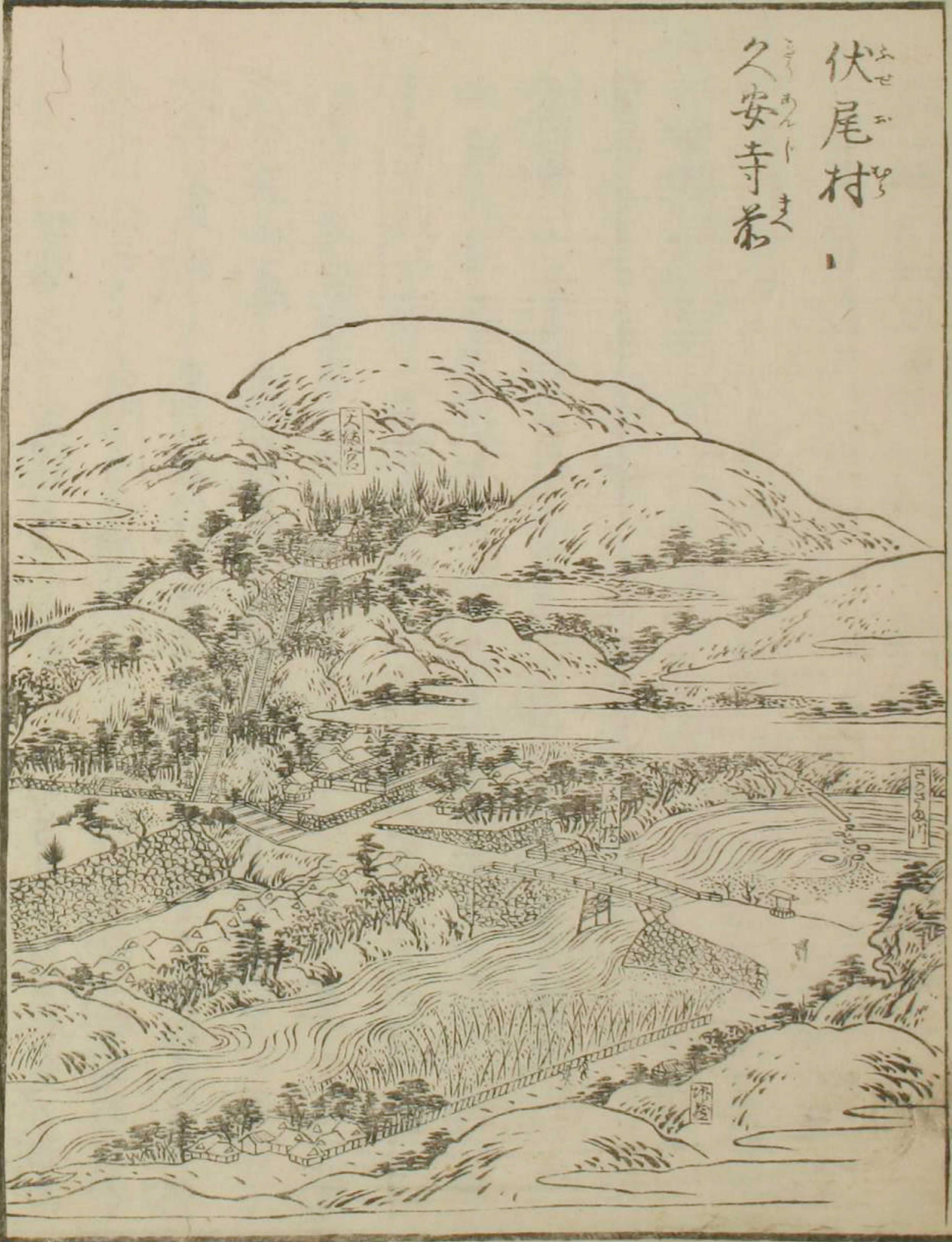
あふの山内あり

精修初りて時、天皇其靈瑞と聞ひて詔して尊像を金剛院に入らせ
邦精藍を創し、其左右不動多門及ひ二十八部衆と云ふ
朱雀池の西畔に空荒神と稱し、伽藍神と云ふ金堂を築師と安し講堂を設て
毘盧遮那佛と云ふ其旁に五丈尊と安し、多宝塔を五丈及ひ佛舍利と云ふ其外
食堂、講樓、僧房、若十の樓門の西に二院と稱し、無量壽佛と安し、新
安者と云ふ又、代橋の南に菩提を成建し、地蔵尊と安し、其左に真言十王の
像を置、又鎮守の神祠、經藏と稱し、車籠、初白、權現、遊化の所、龍の香車の轆
轤、同、故に名あり、連理、龍の二流、水もまろく、二流、水もまろく、二頂、北天王、寺、財、天
之鬼、天と云ふ、意、國、寺と号し、中心に、大伽藍あり、今神社遺と云ふ、寺中
弘法大師錫を駐し、密教を傳、般舟經、石書、寫し、く、多夜を撰ひ、或は女龍王と
稱し、く、早荒と稱し、或は西部の曼荼羅と寫し、次、村、異人、本、く、法要を祈り、や、
後、一條院、治安二年、勅し、く、佛、定、朝、一日、禮、の、長、尺、寸、寸、大、悲、の、像、を、佛、
く、初、の、金、像、を、骨、中、に、藏、む、其、靈、應、目、之、新、之、保、延、年、の、冬、火、厄、一、て、本、堂

傳堂、東、心、燬、燼、と、あり、大、衆、燭、と、云ふ、本、殿、入、り、本、堂、見、に、流、石、小、至、く、西、山、の
岩、上、小、光、怪、あり、く、大、悲、の、像、儼、然、と、り、
迎、清、院、は、靈、驗、と、敬、向、あり、く、
久、安、元、年、勅、し、て、事、興、ふ、及、ひ、特、小、宸、書、の、額、を、賜、ひ、久、安、を、稱、次、晨、淺、夕、梵
の、名、を、林、岳、小、應、と、く、一、方、の、名、刹、と、其、時、の、寺、僧、賢、實、上、人、の、不、測、の、人、之、道、高、く
德、廣、し、其、姓、氏、と、云ふ、人、か、其、御、神、の、由、に、上、人、に、詔、あり、て、宮、中、小、入、法、師、説
く、龍、顏、悦、喜、あり、く、宸、書、を、賜、ふ、ま、れ、り、先、名、好、院、の、皇、后、所、奉、の、時、賢、實
上、人、安、平、公、禱、り、加、持、其、功、有、く、皇、子、生、次、是、則、貴、公、の、皇、子、永、治、元、年、尋、位、
近、衛、帝、之、所、奉、安、奉、と、り、く、時、の、人、不、死、王、村、稱、次、後、世、の、文、字、伏、尾、改、り、
故、に、賢、實、上、人、と、云ふ、中、祖、と、云ふ、事、詳、み、寺、記、に、見、る、り、

細河神社 右田村延壽寺山あり延壽寺内今毘沙門と稱し久安と興院とに
毎年正月十五日富舎あり細河谷六ヶ村より支祀れ
名産種樹 細河谷より芳糸解流連及ひ諸國へ出度都ては廻の地、北の方山岳あり
少村山退蔵崎陽松菴 右田村のあり禪宗曹洞宗基天桂和尚享保年中の建立
釋迦佛 客殿の後あり陶山山門額 派北禪社
小安次 内暖堂 二世等の肖像が安に 系極宮内系

伏尾村
久安寺



攝六十三

拾巻
あのをふ
みちの
綿かさ
川原の
まねま
あは
健守法作





山家
 花の香風
 つらね
 吹く
 さし
 風の
 ちよ
 あり

鐵成去

白山

車

久安寺



挿六十四

為那都比古神社

白檜村あり延喜式内萱野谷十一村の生土神と云今大宮
二彦と称する為那都比古の二神と云内々正年中
織田信長高山右近に命じて掛川の神社に祈禱其時神人牛頭
天王と神狛が改む慈濟に牛頭天王の信長の氏神と云其難成
免とて終存例永九月十五日神慶以同郷五箇の神社一供
の人々白幣二十本と掛け神馬を足神主社傍十五人村民を
芝村宿村等あり

大宮寺

日所あり為那都比古の神宮寺に醫王山持寶院と号次開基の
醍醐の聖室尊勝と号茶作佛に豊徳の郡司左衛門尉時宗
佐道の造立と毎集の醫王山寺の法あり自然石あり高十三丈
正月小修正あり

萱野の平墓

萱野谷芝村陽光院あり号次重次と号次則芝村の産人
其操法傑あり

安倍晴明墓

晴明墓所あり一説小安倍泰成が塚と云い便小分明る
東細村あり

猪名笠原

猪名に都て豊徳郡より河辺郡に至って平原の
猪名笠原

猪名

むら大物の浦より今の伊丹池田の辺東に吹田江口のやくりやう
入江あり通船あり又所々小池あり

猪名浦

猪名浦猪名淡猪名沖猪名淡

猪名中道

猪名中道等あり

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

猪名

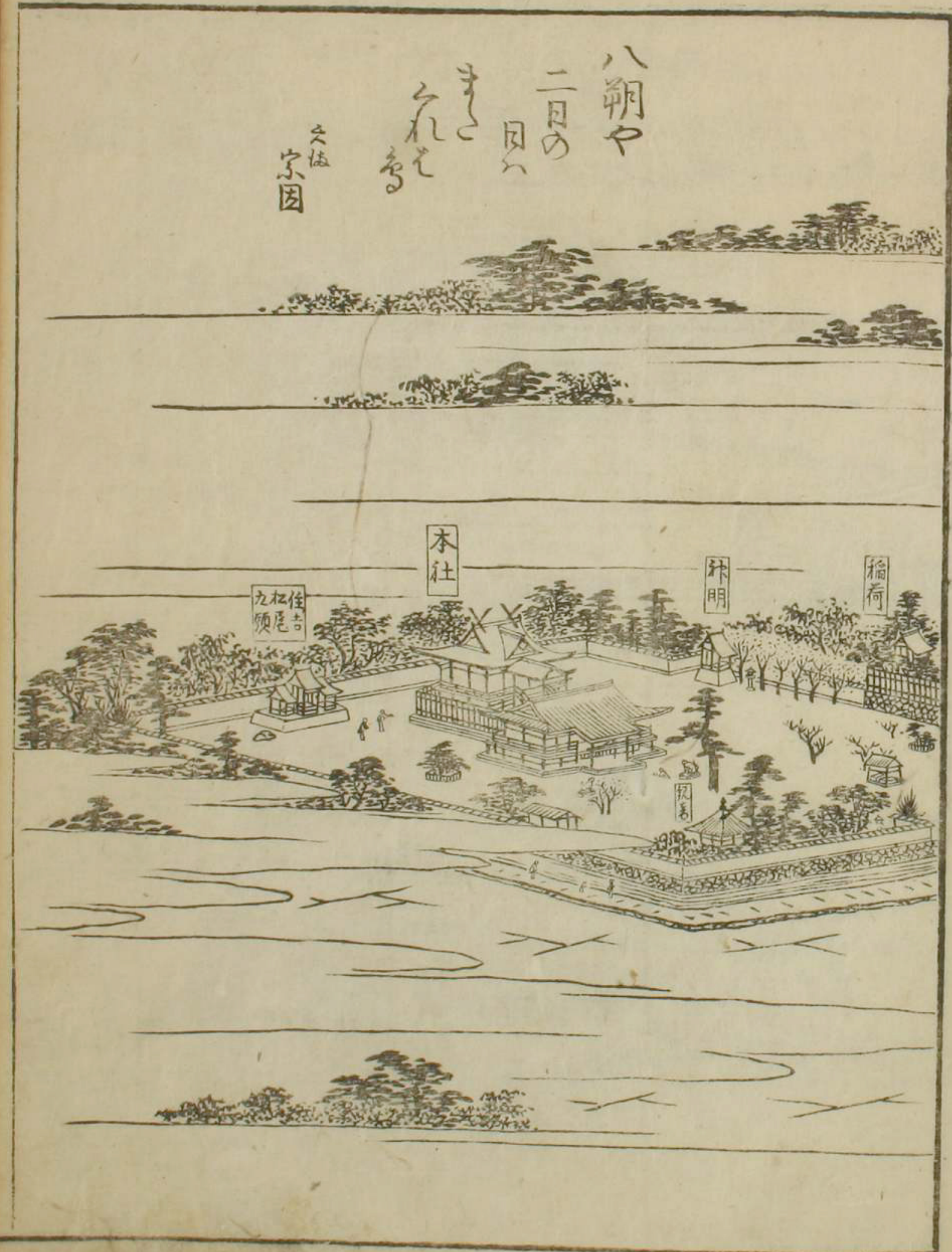
猪名

猪名

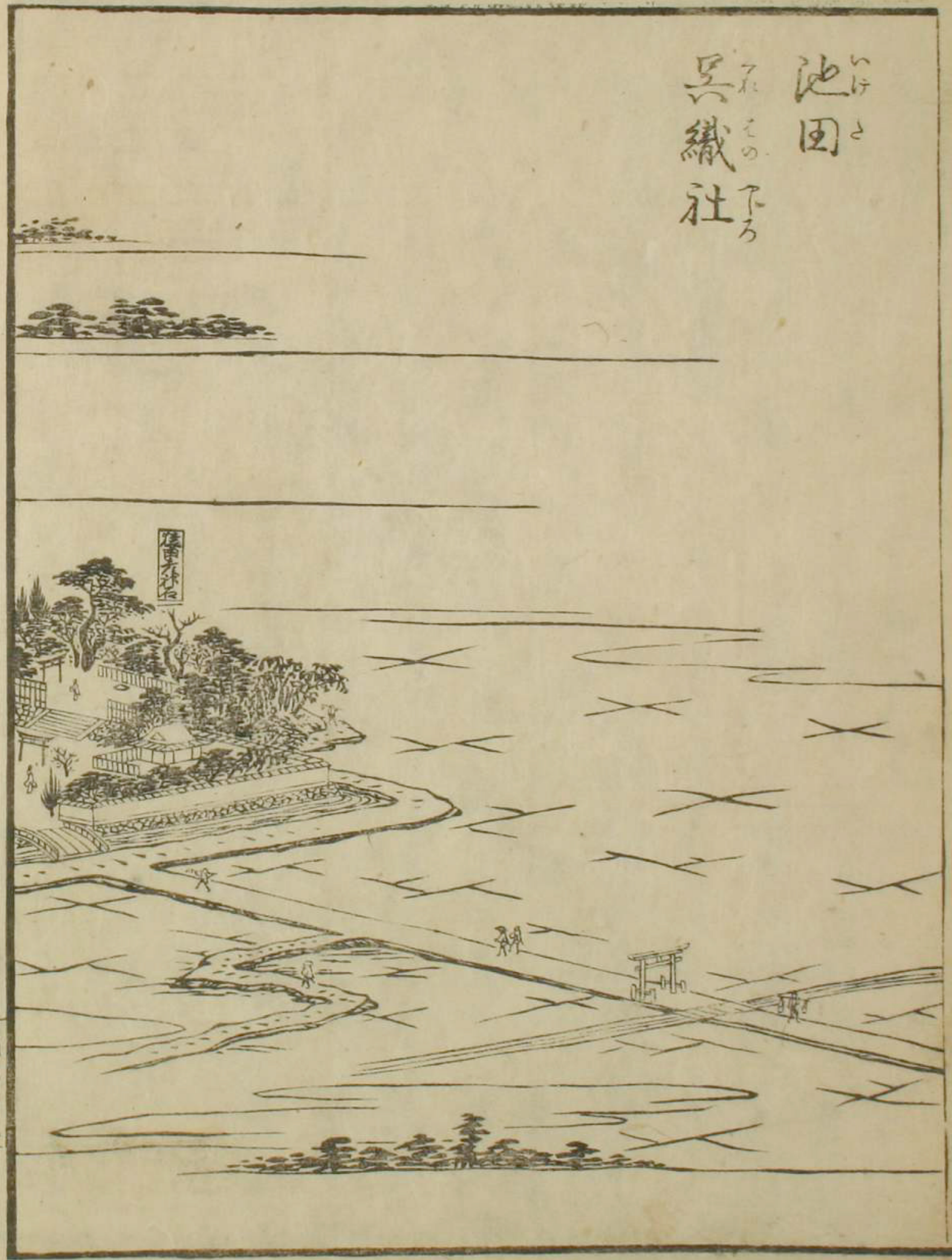
猪名

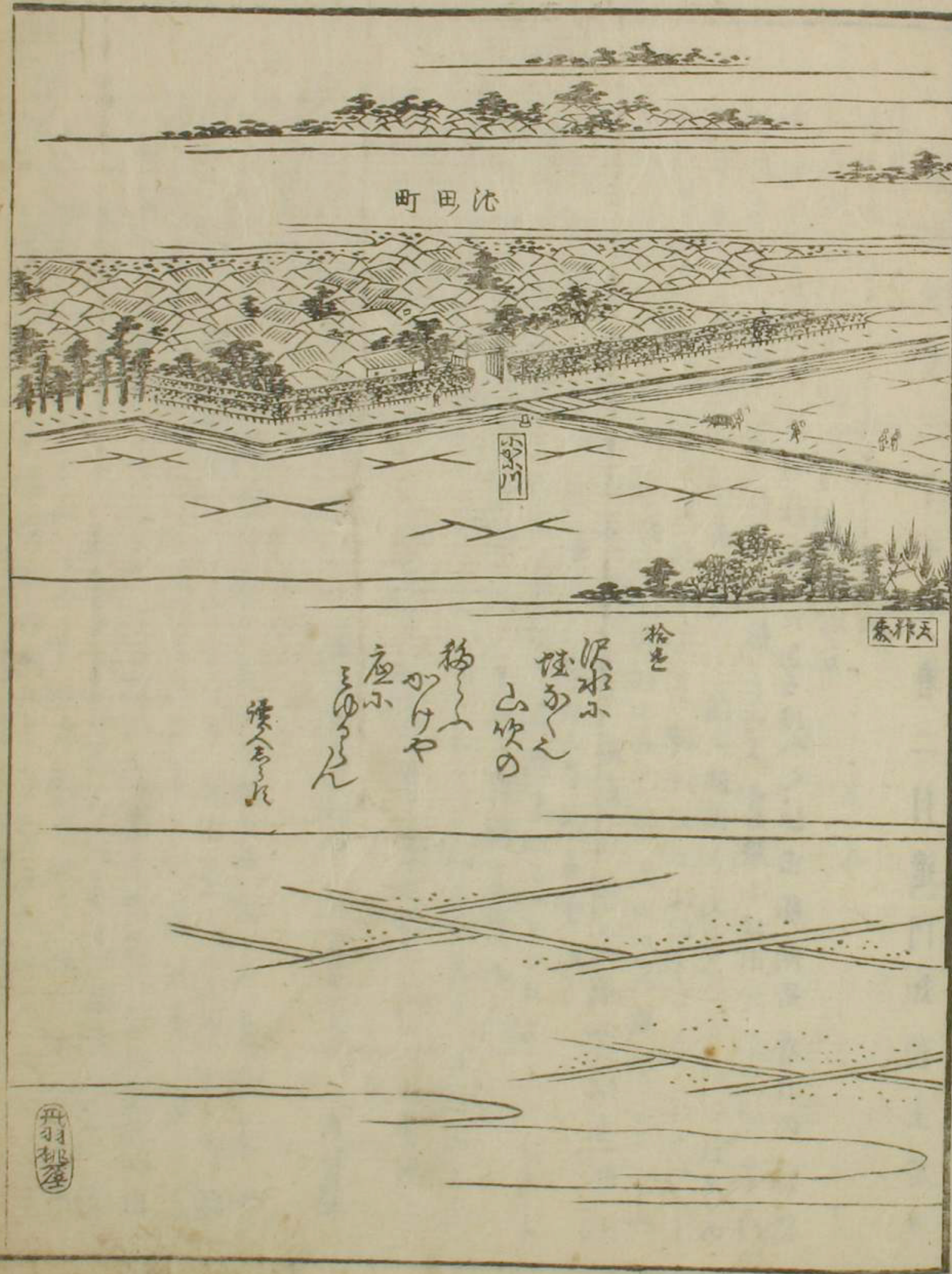
猪名

八朝や
二日の
まの
くれ
宗因



池田
呉織社





沈田

同名吳服里と云豊郡都會の地ありて交易のあふなり... 沈田の里小きなかりし... 兼仲

日... 兼仲

穴織神社

穴織神社 日所小の入口ありて土神とて例祭九月十七日あり... 伊居多も吳織小ありて穴織といふ... 應神天皇二十七年春二月遣阿知使主於吳

應神天皇二十七年春二月遣阿知使主於吳

唐船

唐船 他田諸名川の中あり... 應神天皇二十七年吳織穴織の二女風朝し...

令未縫工女爰阿知使主等渡高麗國欲達于... 乃副久禮波久禮結二人為導者於高麗王... 王於是與工女兄媛弟等自吳宮年百... 一帝十歲大開宮是月春二月知使主等自吳宮年百... 宵則今在神宮是月春二月知使主等自吳宮年百... 是則今在神宮是月春二月知使主等自吳宮年百... 干鳥尊是及武庫而後今吳皇崩衣縫之既不及即獻... 同卷云雄畧天皇十四年春正月身狹村主青等... 共吳國使將吳所敵手未才伎漢織吳客道通... 縫兄媛弟等泊於任吉津是月為吳客道通... 磯齒津路名野因三日月命臣連迎吳人即安置... 輪人於檣限野因三日月命臣連迎吳人即安置... 飛鳥衣縫部伊勢衣縫之先也漢織吳織衣縫是... 三代實錄曰... 坂上大宿禰... 貞觀四年後漢孝靈皇帝四代孫阿智使主與... 同祖也云



け事
あ

言
立ちて居るま
人のあはれを
おれしやし手
編むるは
貫之



了と
應神天皇御宇
漢人呉振穴縁の
二女つとく錦が
織る事をして
永く傳へん
京師西陣の
所小洛々々
つとくの
織る事自在
兼好が
茶種の外
唐土より
と縁のお
つとく
事い欠
いそれ

丹羽祐屋

榻六十九

深殿井

池田兵衛社より南田圃の中ありかの二女は井より糸を深
織造しつる今お願ひの中お祈りせしむ

糸繫松

池田の東小山頭ありかの二女は糸を繫ぎ松の
下で干つたり名を糸繫松とす

織殿齋蹟

池田の南の田也兵衛野といふ其の中の田圃の字小あり
かの二女ありつる糸を繫ぎ初め古物とす

星御門古迹

池田の西の字小あり二女は糸を繫ぎ初め古物とす
織造しつる今お願ひの中お祈りせしむ

梅室姫室旧跡

日所の小ありかの二女は糸を繫ぎ初め古物とす
織造しつる今お願ひの中お祈りせしむ

壽令寺

池田小あり醫王山
と号次

平尊藥師佛

兵衛穴織の二女末朝の時海上護持の尊像あり其基
傍正に二女の神社小春籠の時神籠ありては漢土
より將來の薬師も末唐船剛あり併法值遇の侍奉は
早くおれは探取し置く併場分信し置く其基は古に
初め御座と探りし像を得たり其基は地をせんとする小併像
をくして磐石のみにし有縁の地ありんとする小併像
を係と安置し自十二神將四天王と相並つ初め神願寺
と号し時小天下夜宿流り村氏に奉り帝り基は勅し
ける教に傳りしり中光明四方小満く夜疾とくく徐進り
廿時改く壽令寺と號しつる

高法寺

池田小あり
待兼山と号次

本尊十一面觀音

尚寺南基のり基傍正にむしり初めの名所侍兼山の
絶頂あり永禄年中まゝ池田城主筑後守の
祈願所と具後兵火の災に罹り
灰燼とあり故に今の地に移り

池田古城

池田の西五里の地あり池田氏累世に居り天文乃初年
細川晴元と據り永禄十一の池田筑後守光政とに在城
搦諸足との邊あり

荒本攝津守墓

池田兵衛也小あり
墓跡小あり

櫻橋

池田小あり
由縁不詳

梅忠臺

兵衛也の田圃の字小あり梅忠は所の春ありて磐石を築き
半々若次其家宅の古跡と又梅忠と名を置けり

五月山

池田の西方あり持津志日實佐伯山今訛り五月山といふ
又或書曰佐伯山へ川辺郡猪名寺村小ありとすは所は山
原按さる五月山と稱する身年久くして古跡多し五月山佐伯山
を所二名ある一契沖は仮名のつとへと傳へるなりとす

新古

五月山を花月教子親きけとありはまゝか人も
後人志ん

拾遺

五月山本此下軍中より兵火の麻のまとのあるなり
五月山を花月教子親きけとありはまゝか人も
後人志ん



佐伯山

五月山の旧名あり
日本紀曰 仁徳天皇三十八年 猪名縣佐伯部
國郡散亡 同卷 佐伯部以佐伯天皇二年 佐伯部連
部造同卷 日齊明天皇二年 佐伯部連 抄經手
云 同卷 日齊明天皇二年 佐伯部連 抄經手
云 同卷 日齊明天皇二年 佐伯部連 抄經手

池田愛宕

五月山の町あり 池田の町あり 山路八町山の方へ 佐伯部の祖神と云ふを以て 祈
風系の地へ 毎年七月廿日 祭事あり 穀の穂盛と懸し 法金に於て 祭儀あり 又
天徳の聖原より 聖のゆき見ゆる 此の愛宕火といふ
鹽増山之廣禪寺 五月山の半腰あり 禪宗曹洞

釋迦佛

客殿あり 脇士文徳 尊賢 同基 天蔵 禪師 予預へ 應永年中 池田
定門といふ 文明十四の十月廿日 日新に 墨碑あり 其文曰
清曉朝 天眩色微 新雲先動 袞龍衣
千官拜舞 金密殿 携得香烟 滿袖歸
むいけいの中み池あり 潮のは干あり 海水のぬき あり 創建の時 池と
理と其旧蹟と遺して

牡丹花看蹟

五月山大慶寺の境内あり 又寺小
呉瀧里小池あり 池に 牡丹花あり 其花 無菴といふ
篠の葉に 若も 俊乃 お夜うり

牡丹花看蹟の祖は 具平親王の生涯 榮利と厭ひ 吳織里に幽棲し 亭次
無常と号け 和歌 和歌 詩と 琴と 彈し 又花看蹟といふ 吳織里の愛記と

賦あり 牡丹の句あり 其の句あり 牡丹花と
野服 野服 其の句あり 黄斗小 驕る 猶 祥 其 兩 角 小 金 箔 押 次 女 賞

とて 天徳と 和歌 亞相 實隆 卿 皇太子 宗祇 皇太子 永正 年中 天皇 其 法 操 と

聞ひて 便殿 小 檄 見し 竟 相 唱 和 帝 神 威 の 後 辞 して 里 小 塚 宮 嘗 て

攝の 乱と 避く 泉州 堺 津 及び 和 別 平 城 小 遊 門 子 各 業 瓜 分 の 多し 今 小

あれと 奈良 傳 沙 畏 傳 といふ 永正 七年 四月 八日 卒 次 書 次 杖 東 隱 傳 と 号 け

永正 七年 の 秋 帝 牡丹 花 と 見 見 中 一 辰 原 實 隆 口 勅 使 といふ 宮 中 小 召 を
其 附 禁 裏 御 愛 想 の 事 あり 宮 中 の 御 會 あり 竹 會 あり 竹 會 あり 竹 會 あり

有岡古城

池田の東北あり 池田 勝入 信 輝 の 居 城 子 息 三 友 傳 輝 政 へ 傳 小
其 威 風 と 遠 近 あり 池田 苑 後 者 克 正 の 城 也 然し 古 迹 小

兼好松

穴 織 宮 の 東 竹 林 の 中 小 あり 里 藤 云 吉 田 兼 好 松 と 避 け

猪名川

久安寺川支田川二水本郷村小會... 流と池田小至つて池田... 川とつて下流北川原津津等... 二流とあり一は榎堂... 一は西小流とあり... 神邊川小入は川筋豊後郡川辺郡... 西明寺庵より流る猪名也小續く... 猪名川支本集

後法

年の産ぬこのまじに志わるる猪名の漢川... 後法

子多啼いかの河原と見ふ時とやまて... 貫之

有馬山とひれ月之くいの河原小子をあぐ... 伊嗣

八月雨小い此川水とく小せとるや川と... 後法

釋迦院 青木侯の家臣斎府と云故小地名... 釋迦如來持法橋所とて聖徳太子の沖時波本で釋尊の鐵鉢一器は此窟に入

尊鉢窟 太子の沖時波本で釋尊の鐵鉢一器は此窟に入

弘法の證と一の中後世と成証得くは寺小安次は窟の中... 牛頭天王祠 七所あり一は柳倉村小あり... 池田光重再建は神蘇の表より概の大本殿あり

十二宮 東今在家村ありは此の生土神也... 住右祠 二所あり一は宮前村一は長具古村小あり... 待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼川 王坂村の東小ありむ... 待たれとく川小入は... 巫坂山 玉坂村あり又龜山或ハ龜山と云書次

待兼山 はの國玉坂といふ 坂の東 はの國玉坂といふ坂に在りてを郡に親とえらば通にありと云々
新古 坂の東
新後拾 坂の東

為宗神祠 西橋村あり地生主神 七門井 瀬川村あり 瀬川清水 日村あり
新古 瀬川村あり
新後拾 瀬川村あり

鈴石 瀬川村あり 存慶鏡水 日村あり
新古 瀬川村あり
新後拾 瀬川村あり

佛日寺 瀬川村あり 菅原峰嗣山莊 中野村あり
新古 瀬川村あり
新後拾 瀬川村あり

貞觀十二年三月峯嗣侍淳和院奉太后御藥
湯方之事由是遷為播磨少以近都亦優其身
也仁壽元年加從五位上天安二年為典藥頭

貞觀五年自謝老出為攝津權守退居豐嶋郡
山莊灌藥養性不交流俗十年改出雲姓為菅
原以土師出雲同祖也卒年七十八峯嗣不
墜處治必効嘗奉勅與諸名醫共撰定金蘭方
又針艾之取加多方注之云外
後進之備至今稱妙焉云云

和泉式部塔 古河村無二菴あり 式部 和泉式部
新古 和泉式部
新後拾 和泉式部

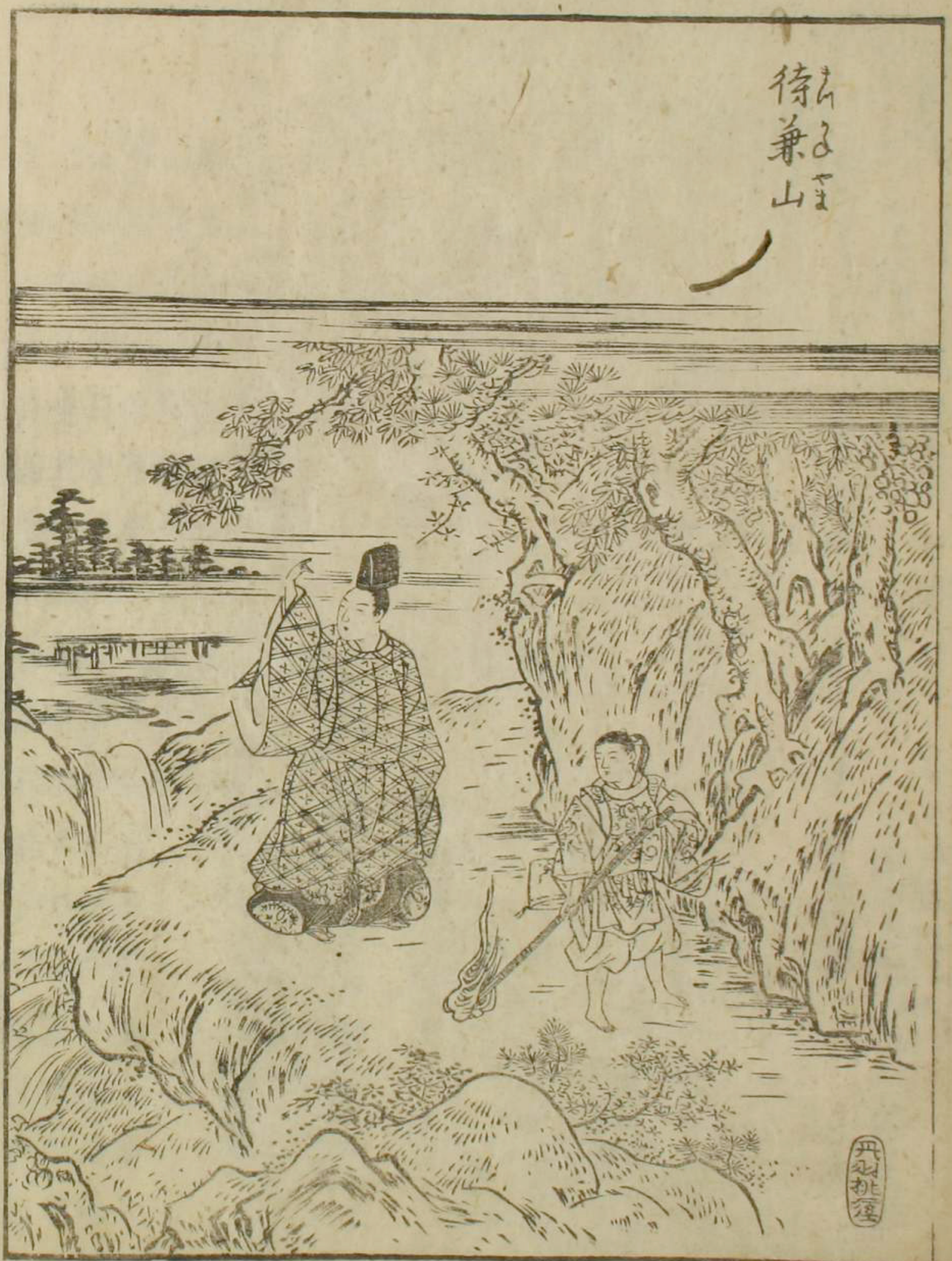
千里山 又名麻山と云 終世田村の上方あり
新古 終世田村
新後拾 終世田村

千里山 又名麻山と云 終世田村の上方あり
新古 終世田村
新後拾 終世田村

千里川 一名六車川又名箕輪川 又名田代川
新古 千里川
新後拾 千里川



宿
 は此國乃
 まいり山の
 岨子名
 あけし今
 づいんか
 主人



待
 兼
 山

挿
 六
 五
 六

丹
 羽
 桃
 屋

寶珠寺

慈聖田村あり津土宗鎮古牛頭天王
尚村の生土神と云

奉尊正觀名

の地

花山法皇所塔

佛眼上人塔

俱小境内あり
石塔圖の古墳に

佛眼寺

日村あり禪宗曹洞宗寶珠寺の奥院と称す
鎮古慈聖三所推現三寶荒神道了推現と祀す

奉尊弥陀佛

尚古六年久しく荒廢し多ると述ぶ室曆年中信長公の規矩
氏宿倫居士との人官慶和尚と号し再興す及後山伴念

嶋慈山

慈聖田村の北あり一名鬼ヶ嶽といふ千里山の山脈と云く
嶮峻崔嵬より山中大小巖多し

阿比太神社

橋村あり延喜式云々月次新嘗文德實録云授從五位下
今牛頭天皇と称す尚村稻村半町村の生土神と云

豊島牧

牧村其古蹟といふ延喜式曰攝津國豊嶋牧右寮
右諸國所貢馬牛各放件牧隨事警用云云

續日本後紀曰兼和八年十二月攝津國地三百
町為後院牧

天竺川

水係輪聖より流る上津橋標榜と号す三國川へ入るよりわかく
平少水く連る子歩及故曰天竺川の俗稱あり

禁牧家

東細村の村甲の居室に傳云弘法大昨諸國巡り且過し
抑も水無月の交暑に一夜とぬせられしや新くたの

大昨大に伝ひしやけ細村の者痛つりて一夜の宿を申され弘法
かく小ぢひたけ大昨傳りしやけ細村の者痛つりて一夜の宿を申され弘法
今も此家の署懸と云く其懸あり半後世小至りてもこれ公
奇と云ふ

原田神祠

橋塚村の南出口あり素神五尊蓋鳥尊日神月神御王命
稀田媛命之例系九月九日莊内十一村の生土神と云又通例と云く麻の

頭と造く林幸みりて臥舞祀奉といふ半ありひり南都春日明神
より使小麻のまひあり

南郷春日神祠

小若瀬口南郷村あり尚社に養正年中平将門征伐の初預小
より使小麻のまひあり

と其外南都の神領皆別小放く七万石余あり一由尚社大田文みりて
南都あり神職の座領川あり方北の方の名あり神主今西氏あり方
社家あり今相後次神庫あり後醍醐帝の綸旨二通後二条院の宣旨
後光嚴院の宣旨後村上院の宣旨其外將軍家の祈願文列度の簡牘
官家の制状古證文表一百餘通あり又文治年中より文正の末まで乃
田圃の地籍百餘巻あり及ぶ龜文正の乱に罹り社頭大荒廢し
て今の村民教系次

櫻井春日神祠

小若瀬村あり橋井谷五村の生土神と云
春日大明神と稱次通世職のあり

櫻井

社頭あり傳は耳味姓氏録に云く橋井の姓は右京諸蕃橋井宿禰
の後くは地内の宿禰の領地と云



石
 喜の如子
 おのりきりれ
 けりしひか
 そのあうか
 人かちんく
 おのりきり



き
 子
 暁

権少三六

丹羽栞堂

藤井三淳碑

寺内村の上方観音寺あり藤井三淳の初代... 藤井三淳の墓あり... 藤井三淳の墓あり... 藤井三淳の墓あり...

名産椋鳩菜菔

椋鳩菜菔は上津村に多く産する... 椋鳩菜菔は上津村に多く産する...

岳水神社

岳水村上方あり延喜式曰名神大月次初嘗禊初雨及八十島系其... 岳水村上方あり延喜式曰名神大月次初嘗禊初雨及八十島系其...

岳水神社 八十島時祝賜布二端云云 例系六月廿日九月晦日

積日本後紀曰天長八年九月授從五位下... 三代實錄曰貞觀元年正月授從四位下... 元慶元年六月奉幣祈雨... 真雅命後也六世孫阿利真公... 世天下早也河井洞絶干時阿利真公... 樋以岳水四山基之令通水宮内供奉... 天皇美其功便賜岳水公姓掌岳水神社也

岳水

社頭あり岳水村にあり... 岳水村にあり... 岳水村にあり...

裁松寺

聖徳太子御代寛永年中興り永享元年三月の記に因り... 裁松寺にあり... 裁松寺にあり...

維子暇

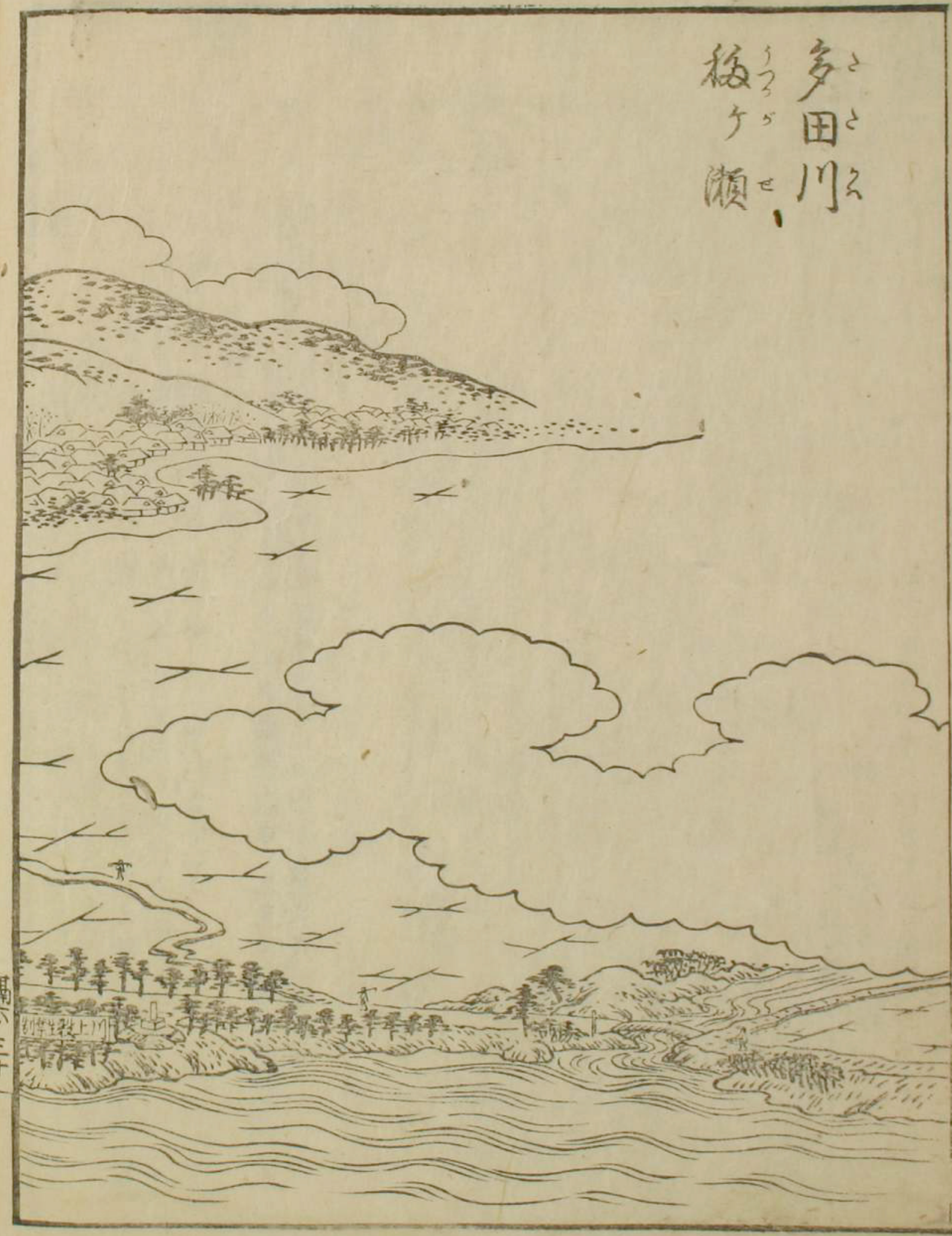
岳水村社頭の西の方あり... 維子暇にあり... 維子暇にあり...

三國川

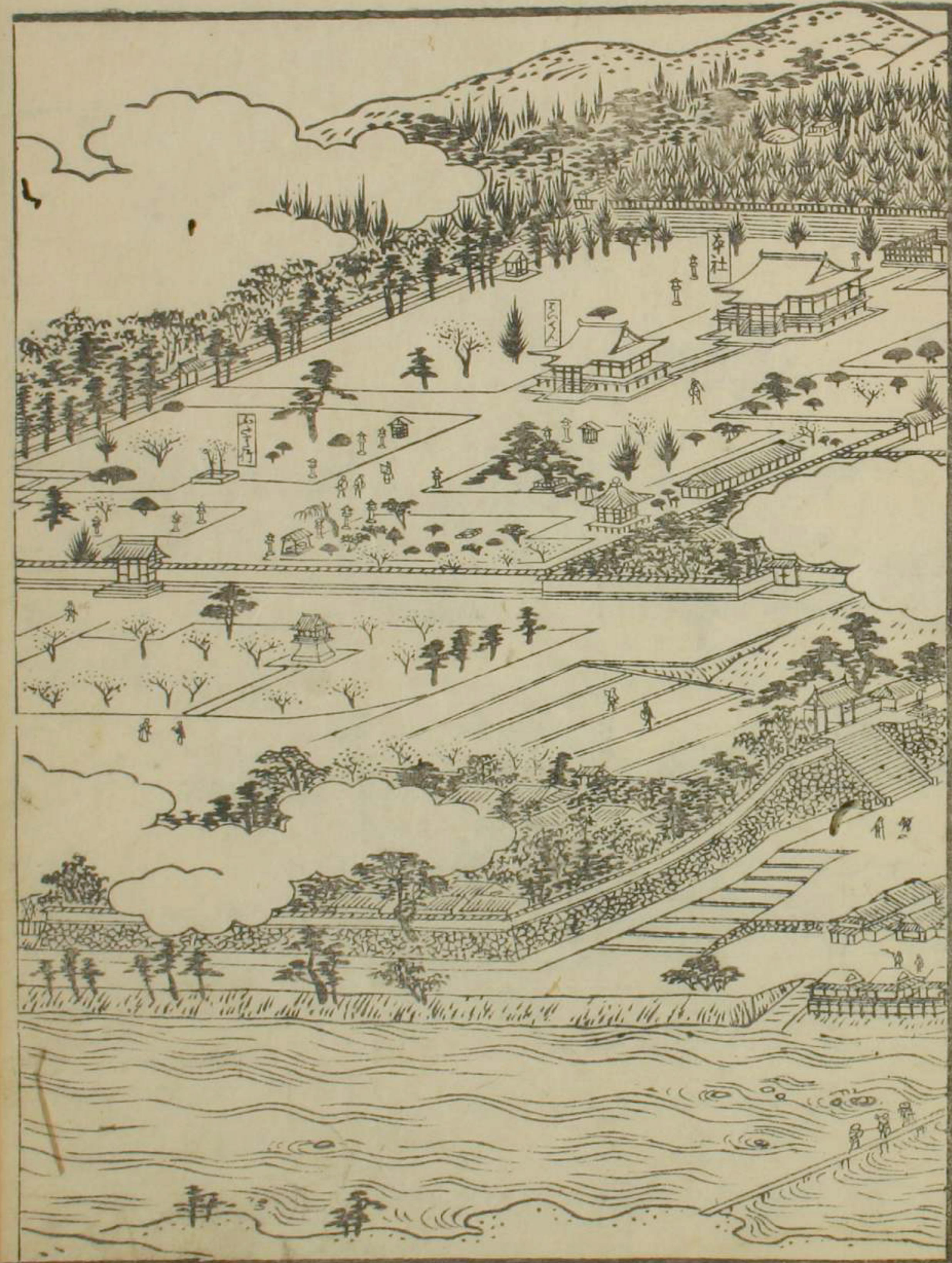
又神邊川といひ三國村より西成郡三は登り... 三國川にあり... 三國川にあり...



多田川
後ヶ瀬



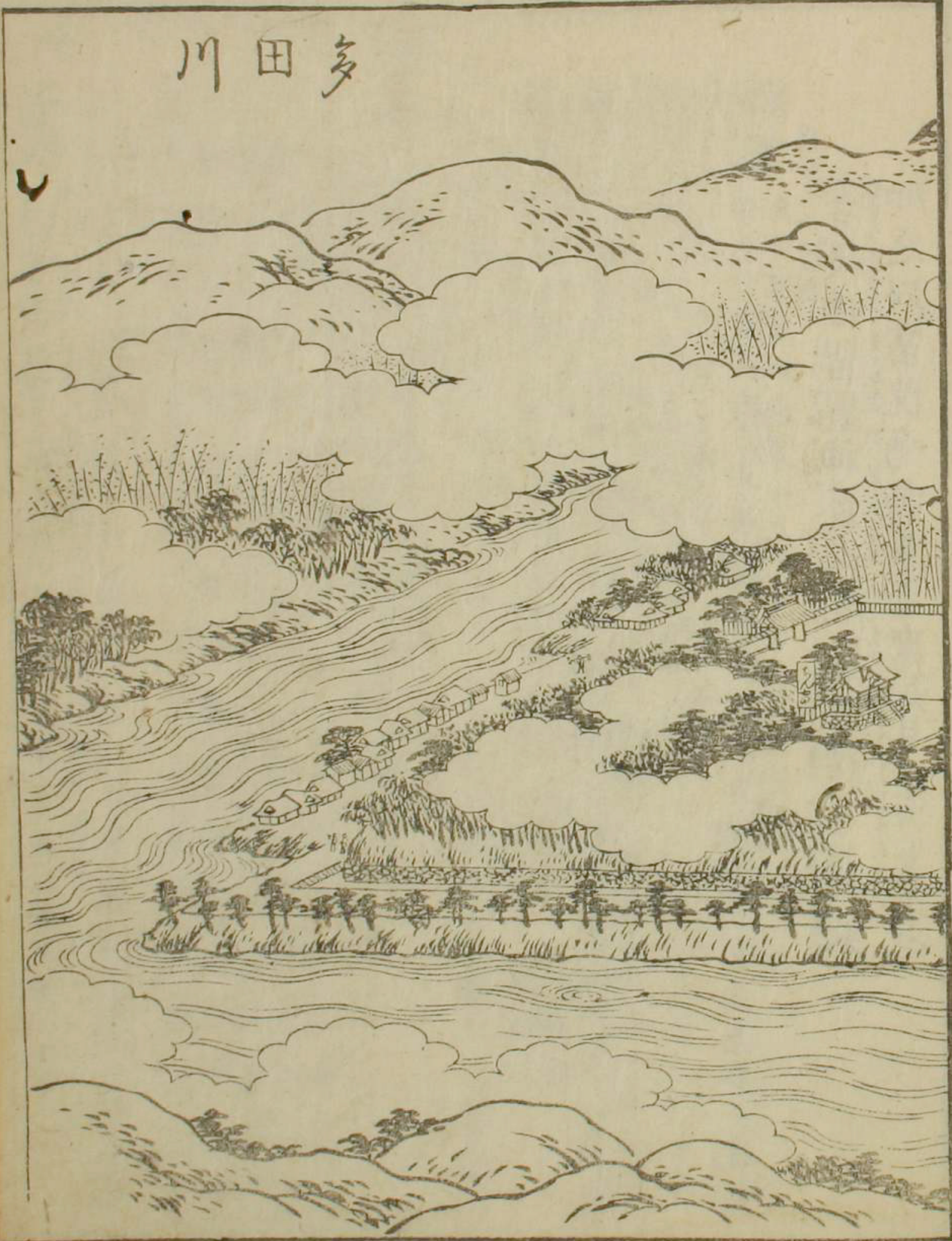
橋



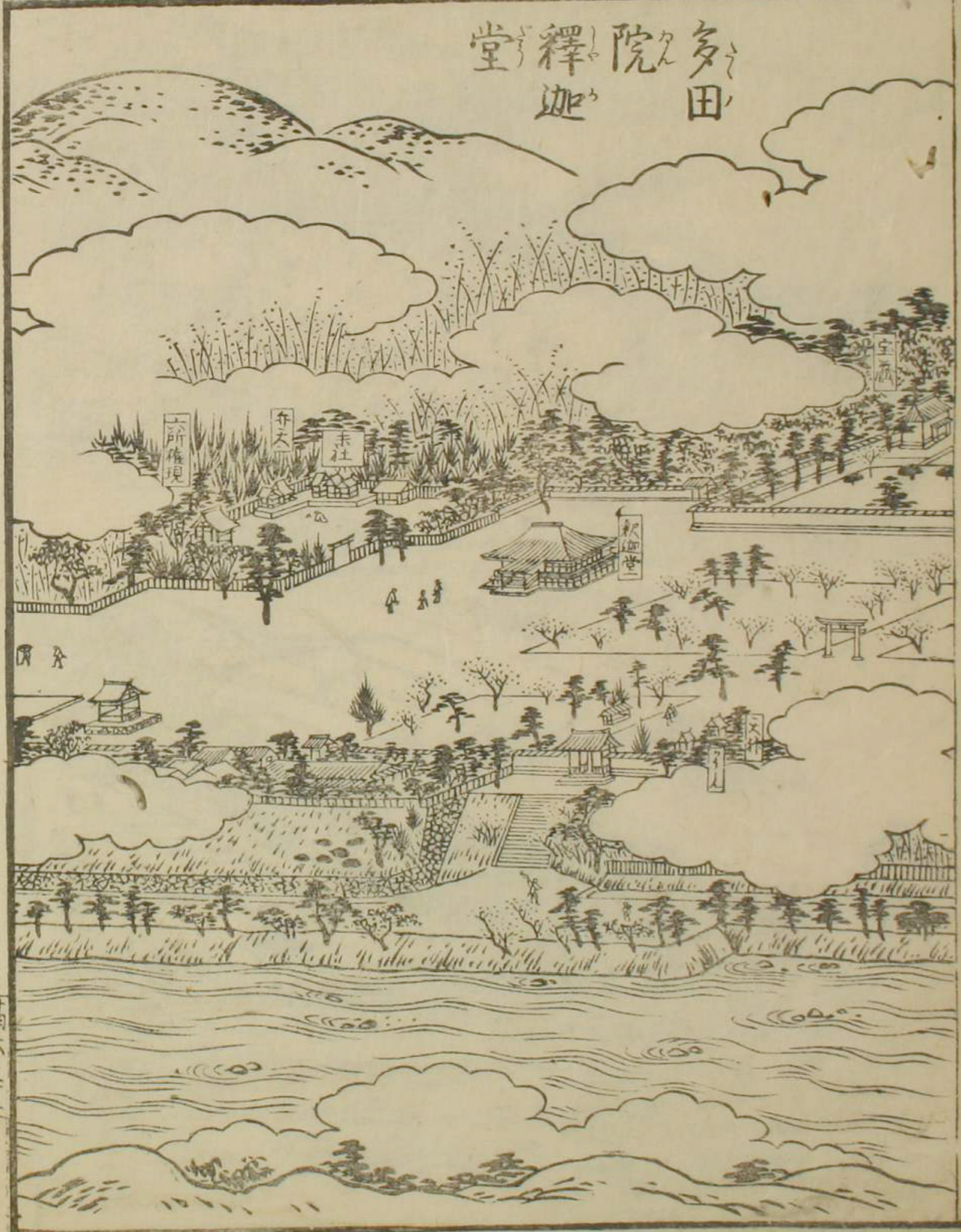
多田院
神廟

福公年一

多田川



多田院釋堂
遊田



君と成良とある君と則皇帝王后長則源平藤橘の四姓あり所謂
聖武帝葛城王と始く橘氏と賜ふ天智帝ハ内府鎌足公と始て
藤原氏と賜ふ桓武帝の皇孫高望王と始て平氏と賜ふ源氏の
人皇五十六代 清和帝の後流之世君の第一宮貞明親王讓位受禪
ありて 陽成天皇と號し第六宮中務卿正四位上貞純親王と
一條大宮桃園宮舊蹟水の水小 住入河子公經基王と申する第六の皇子
の御孫たるふより世六孫王と稱し之を
中々武藏守橘公敏有の息女ありて延喜十年ふ婚姻ありて後かく
妊身とありて同十二年四月十日御出誕ありてなり成長ありて
文武兼備の名將和秀の達人多田備仲公といはれ君と冠乃時父
六孫王と俱不出陣ありて関東ありて平將門九州ありて純友等乃強
敵と威ありてある時佐吉の瑞籬小糸籠ありて七日七夜の向港津和念
凝一再拜願首の後靈爰と夢ありて多田莊小部とありて九頭乃毒乾

新田の世田

と平げ天祿元年二月十日多田莊小入城ありてなり新田城
と號し之を本々神明授與の地ありて地利の揚てありて福
とありて足らば山岳崎嶇ありて馬蹄遺りて城壁凸出ありて
弓矢掛らざらば固守一の要涯之に四葉の御時始て源の姓を賜ふ
由是法和源氏の始祖と依はれ時乃宿禰公御年半百の以自彫刻
ありて足高院の神躰と六十五才の時薙髮ありて法号と満慶と稱し
七十六歳の時 華山上皇寛和二年當ふ小川ありて勅し
法禪と覺信と改む美丈丸の令ふ孝壽丸の智なる瓜園ありて悲歎
働哭し聖帝のそらありて觀し佛門と深く帰依横川の源信傍都小
師質の契淡ありて成ありて後世の設ふとて城と去平廿餘町西ふ由て
一寺を建營ありて法善と昧院とせ給しありて佛堂香臺
寶塔鐘樓僧院庫裏方丈ふ至ると莊嚴と盡し美麗なり飾り
敷月の経管功成ぬ斯く供養の日あり横川の良源傍正と法し

所氣子二十人導師小從入堂以幔幕の東西列居一左右
の伶倫鳳笙龍笛調々為杖樂奏以導師頼文と高らり小
讀上く教訓ふ乃ふ院内庭上小群集し々膝を坐り扇を噴
徳衆感涙と落さぬと云者か一法令已小終し一伶人又舞樂
奏次は後導師二炷の香灰拈し々施主大檀那二世惠世満足と
祝し之ハ所布施の役小候ひる殿原金銀珠玉綾羅綿繡申小
及つは倭漢の珍寶山のめく積上たれを輝波て足ふり来も忍や
は土地に住吉大明神より授與し之ハ一盡場之其は長徳二の八月
廿日侍居し々かの聖詔を遺し安祥あり々逝去は壽八十六文
とぞ圓く遺令小奉し々當ふ小廟に諒小聖訓虚り次今に
至つ々盡瑞新く又遺詞ふよん々銅鷹と悉く放たれり去とも
年来の契心志は其境内に去り々因茲小所とを志多ひり
厥后忍性菩薩中興し々道化弘く振る百民 後御門院文明四年

八月十七日官原躬良左衛門の上卿と勅使し々賜位と授け又實文年間よ
至つ々將軍家より有司小令して尚院と再官あり是今の殿堂く
多田の神寶と貞純親王の所真孫滿仲之所持の弓菰信守神寶と友
の所記の所真孫御太刀 伯耆國安綱の他 鬼切丸と号は 頼光と頼信と頼義と義家と
等の所指旗之条小銀治金剛兵衛等名他の太刀其外長治二年
二月の國宣文明四年八月宣命 每位記建武以改変代 將軍家
の喜捨支細川勝元為國頼文赤松依冬本者簡等為寶庫小藏實に
尚院ハ風色真妙あり々齋尾山の皎月多田川の清流南小廣母
條々村落踏斜又佳境あり々閑情を慰むる不足たり
多田川 水原六瀬谷より出く本津村に至り本津川とつひ案各柏梨田等瓜徑く畝也
の西より畝中溪小會し多田院に遠り稻名川小入
移カ瀬 多田川小あり俗傳之むり八幡官教白の境に神傍あり面小川里砂美金の
先あり故に名とて多田院の老より移り漸く殺生禁制あり
旗指山 多田村小あり 齋高聳あり一郡の秀嶺あり 曾く備仲とい
孝小所旗成應し 諸軍の標を窺ひ申とあり
新田中城 多田に新田村小あり備仲公居城あり所之具後鹽川伯耆と
ありに居は古の今に威儀依然あり



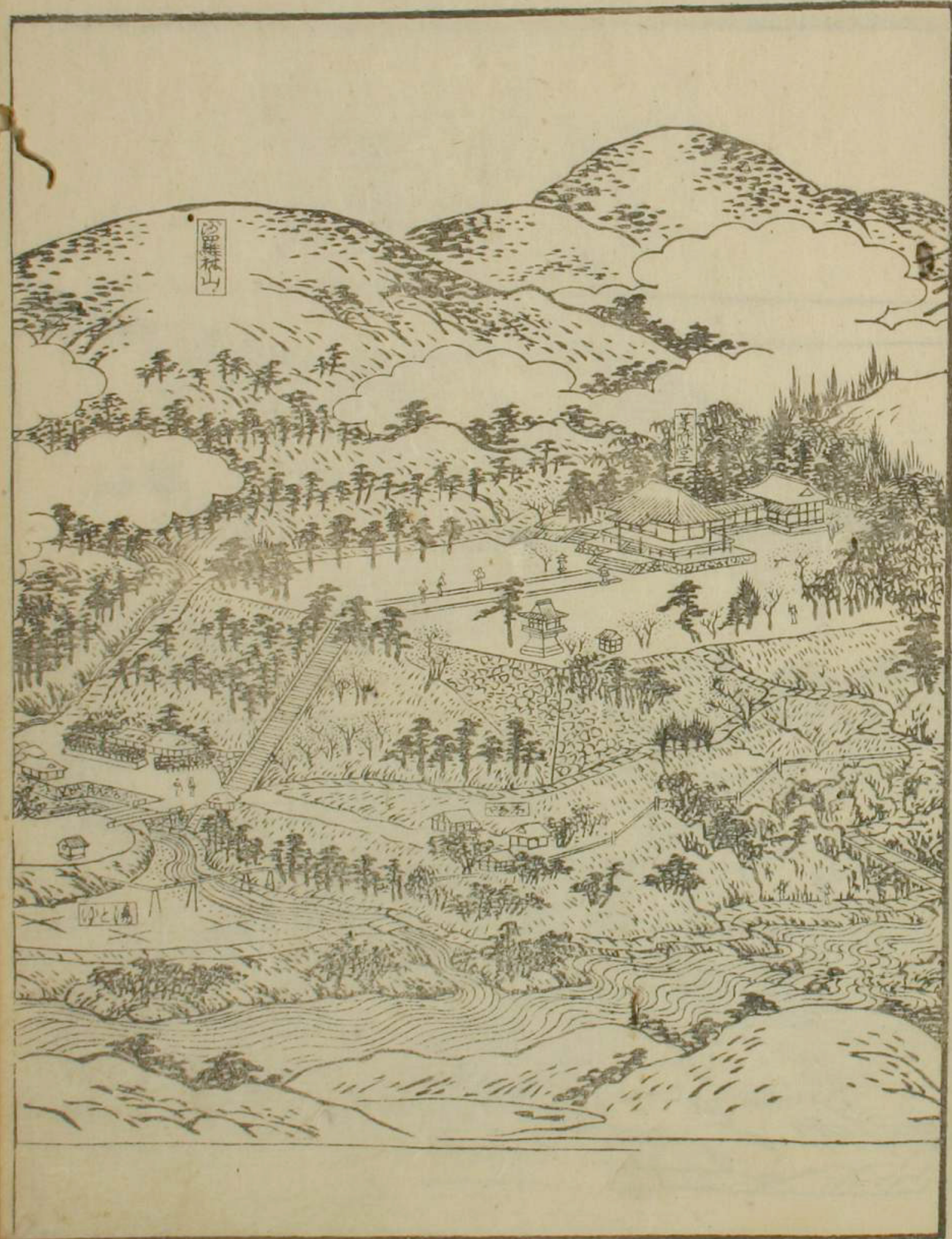
船のみれ
 せうろ
 とあま
 滝の若
 五芳



多田
 鼓ヶ瀧

山指徳

松尾川の
 上へ



上林園

平野

通平八



多田莊
平野湯

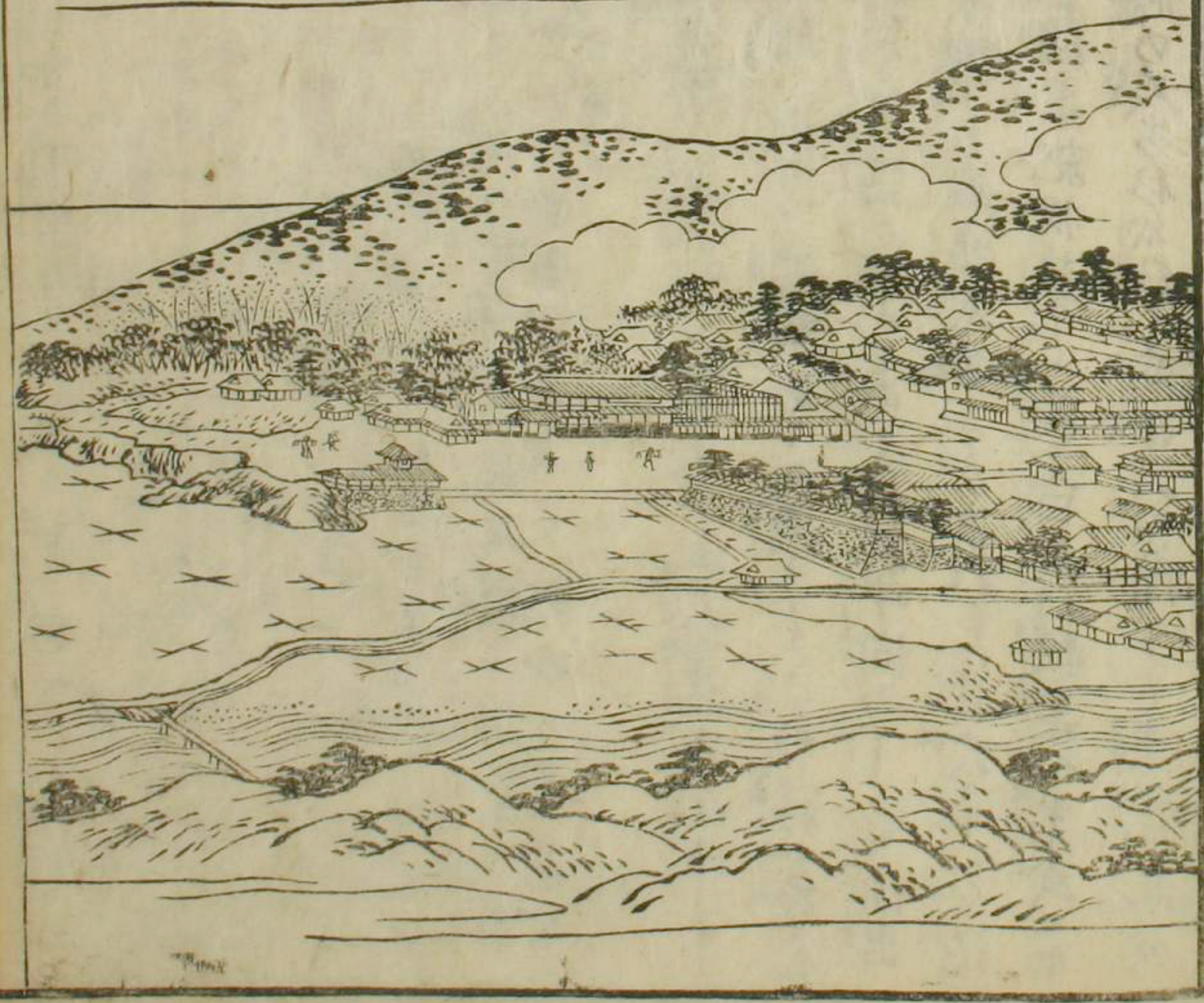
日王山

住吉

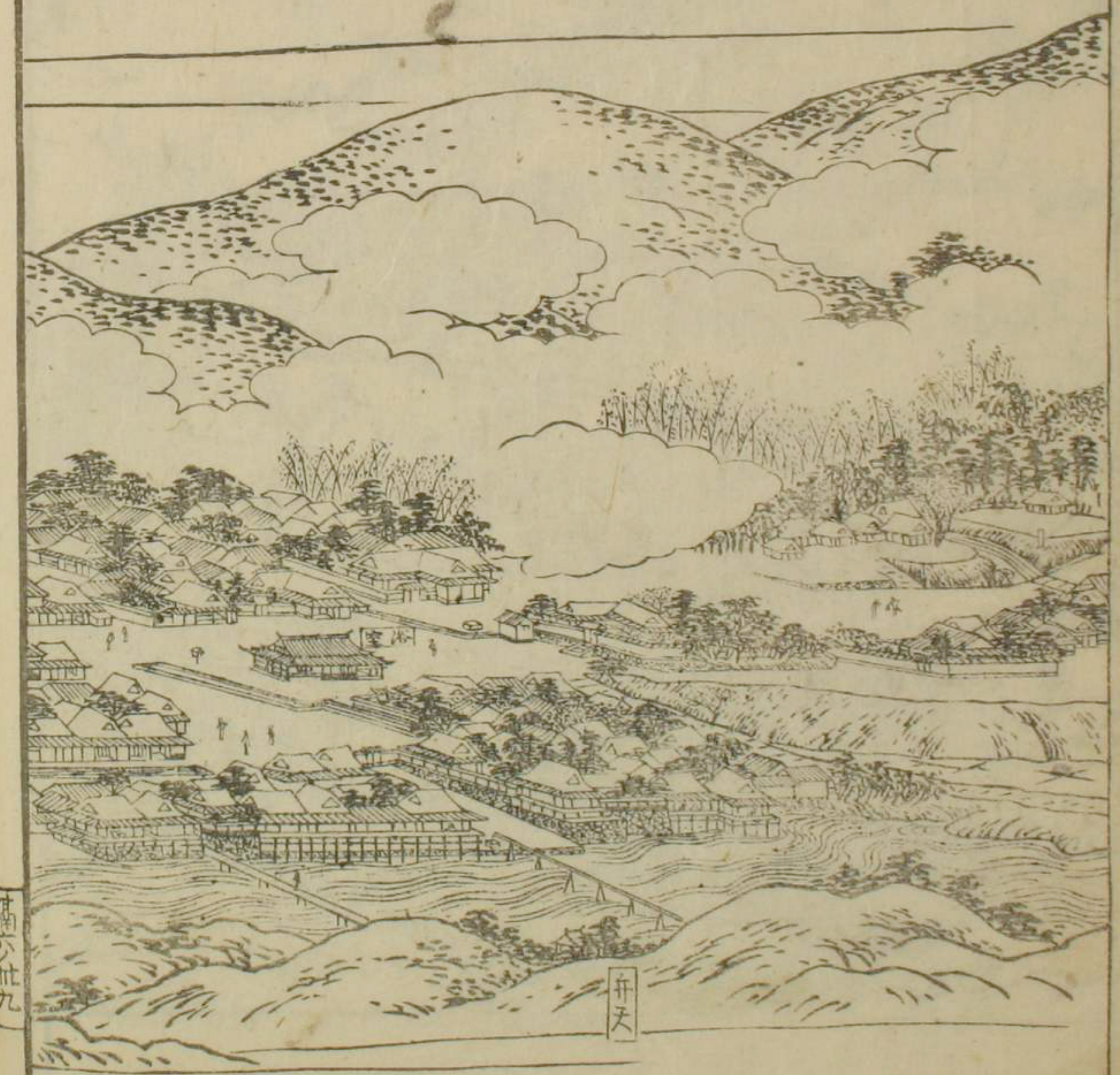
石

口

穴の出る
 金の移灰
 浴々々々
 やすい
 かたれを
 登る
 多田の湯
 其九



多田の湯
 浴室



其九

并天

多田莊平聖湯

平聖湯中向小あり浴室の廣サ方五丈許中其
温湯と其対後舎の女入湯の形は湯の所は是より
解る其湯の平より上小湯と設くあり又湯の所は
入浴の所は湯の所と熱は湯の所は湯の所は湯の
と建く入湯の所は湯の所と熱は湯の所は湯の所
設く諸方の客は宿次入浴の所は湯の所は湯の所
其向の湯は湯の所は湯の所と熱は湯の所は湯の
小は林をへ家なる湯の所は湯の所と熱は湯の所
啓禱より日毎小運送は湯の所は湯の所と熱は湯
ま平聖湯の中其蓋陽縣の金泉小を中く多田莊乃山中
金山ありて金取坑の所は湯の所は湯の所と熱は湯
全に冷泉もあはれ其湯の所は湯の所と熱は湯の所
さる事痛々たり味は鹹く滋味は苦なり其湯の所は湯
と入浴を或人多田温泉記に著し其文曰く此泉は先武帝
中元年中醴泉出京師の人あはれ飲を痼疾み除くと東觀記に

引書一又平小醴泉出所は常安一王者徳成一清平小至る時ち

醴泉涌出く老瓜苦くなり一書に平朝小能く醴泉といふ

吳濃國卷光瀧山城國醴水水なり一多田の壺泉は金氣子

明礬の氣味瓜類よりあはれ瓜服する時必害あり又瓜は湯を付

時功効多し先賢一陽明經の病固瓜治一五臟六腑瓜苦は百脈瓜

補ひ骨髓瓜堅一筋骨を盛り一皮肉瓜肥一精氣瓜増下元瓜

培一血海を潤一耳目瓜明一心神を安一氣憶を強く一五積を

治一瘵飲を去り一瘀血瓜除と瘡毒を解次其外諸疾小蓋ある事

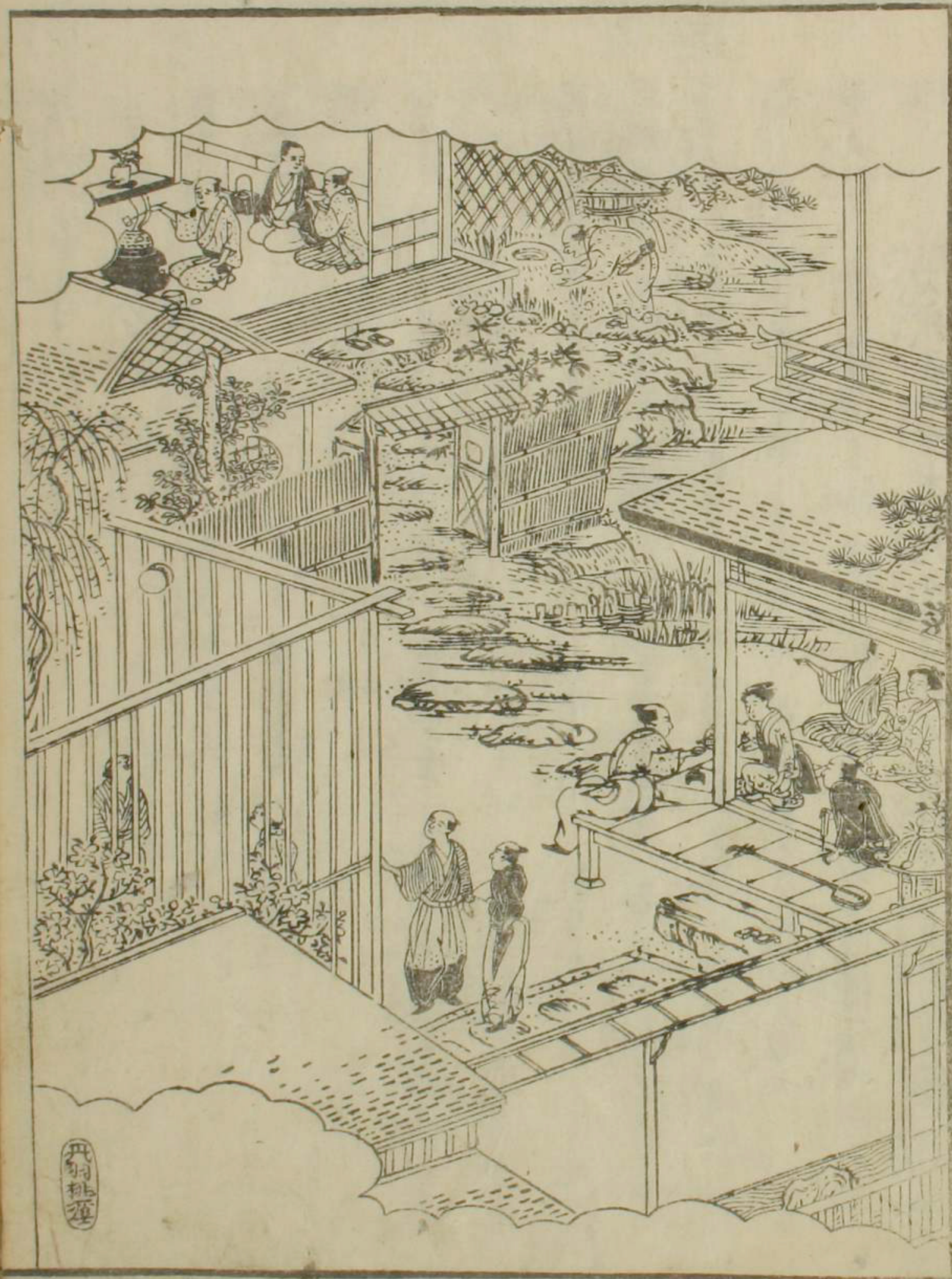
神の如し里説曰原は金泉は始源備仲之神明の若小くして感得し

空より涌出次中は洪水小山山並く滅び又現はるるは隠し一平

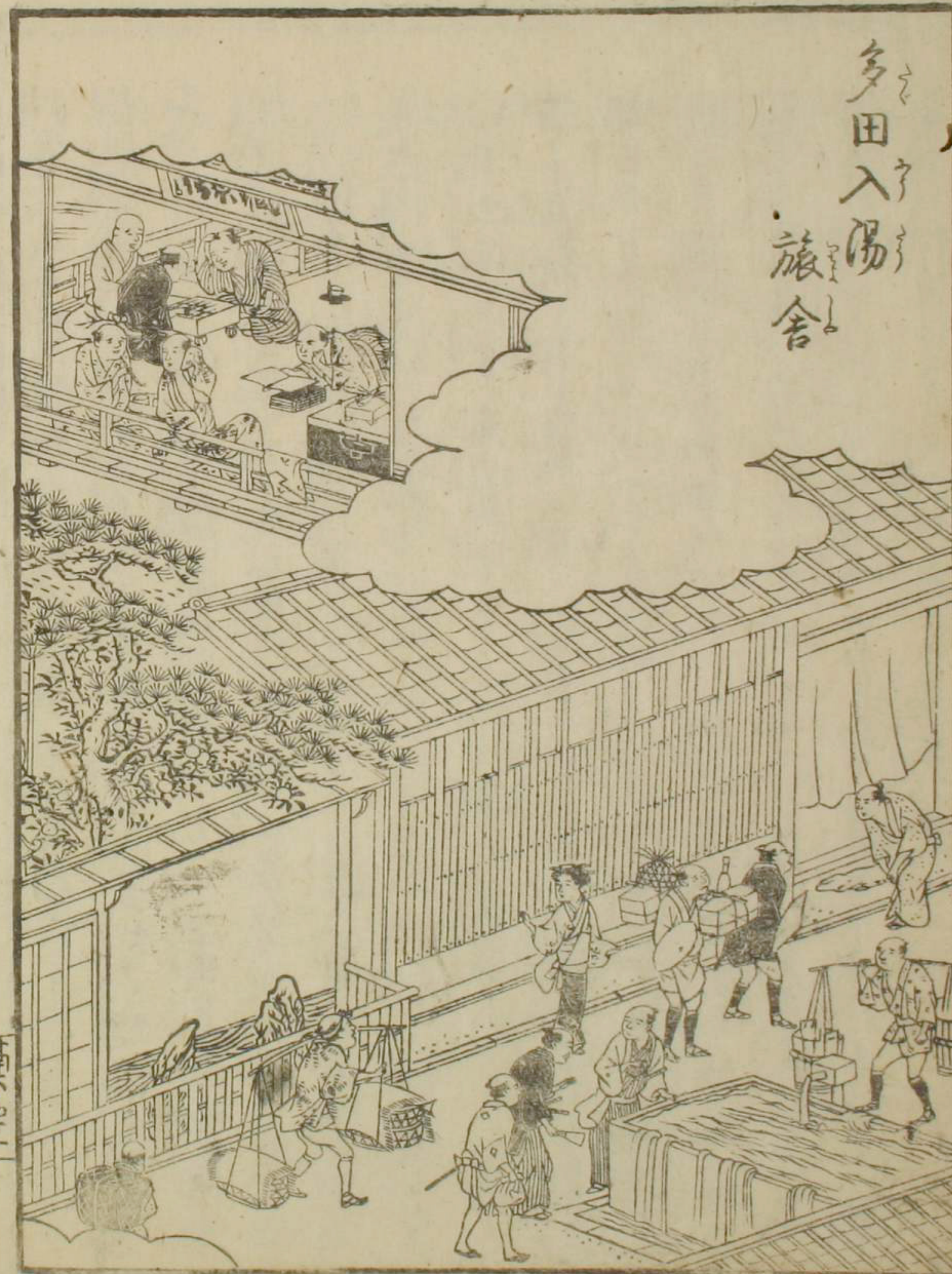
教及小建元和中年中より天下清平あり又現は涌出は元祿乃頃

官家小頼く浴を建遠近より入浴に功驗著しこれ七日平坊

繁昌の地とある事是揚陽風土の壺泉なり



氏桐桃蓮



多田入湯
旅舎

攝六甲一

忠孝山小寺

多田莊西畝に村あり

本尊阿弥陀佛

慈心傍邪の他 観音堂 安ん

幸喜丸塔

本堂の西 本堂の東 日所小

英丈丸塔

本堂の東 日所小あり

源綱塔

日所小隣 松浦肥前守より建て

當寺に滿仲との家は長原仲光の長子幸喜丸の齋蹟に滿仲公乃
師子英丈丸智學の爲小仲山寺小登山かうり一向經輪と日所東
隣に十五本の松より勇極りく山野小橋に殺生は者くく放逸
の行々のと父志を承嗣申ひ父子の慈愛深切ありとくも豈を人
乃爲小法と礼さんや志を承嗣申ひ父子の慈愛深切ありとくも豈を人
有く是一殺多生の理なく仲光(嚴令ありたれんか力りく密子
英丈丸が講をきりて比叡山横川の慈心院源信少僧都乃
寺(堂)に位々我子の幸喜丸の首と斬く身代りて主君(見奉)ふ徳なる

英丈丸も忠節と感し修學を居出加 源賢阿闍梨と成師父滿仲公(見)

幸喜丸も菩提の爲に身を削 則源賢と開基とくく小童のそ号りたる

君らたれいのちよの後の世に登るとしてせいの塔乃月

潮井

日村あり時ひ寛く鹹く注流んまふ湯くく浴をれば法病と治次

煎銷塾

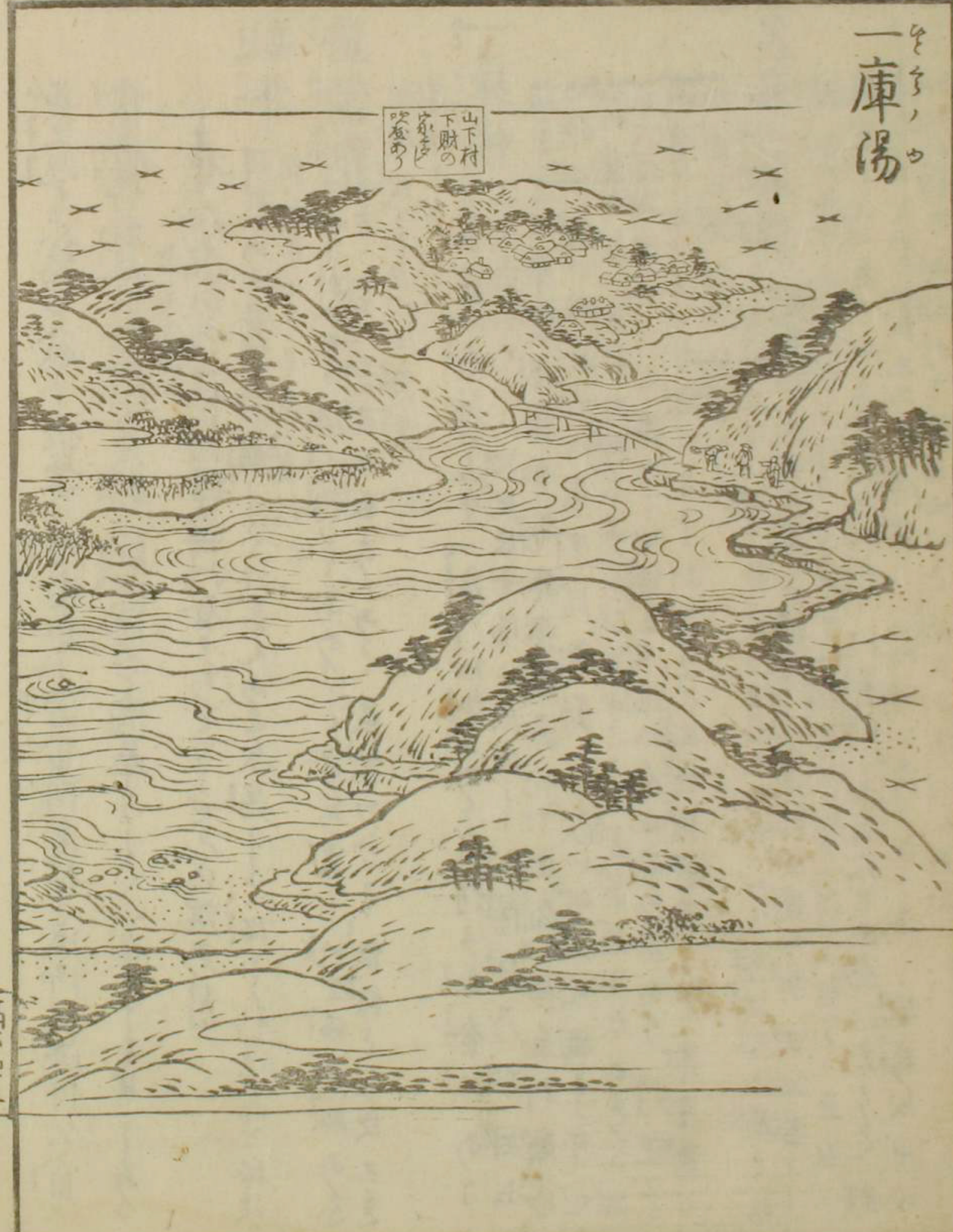
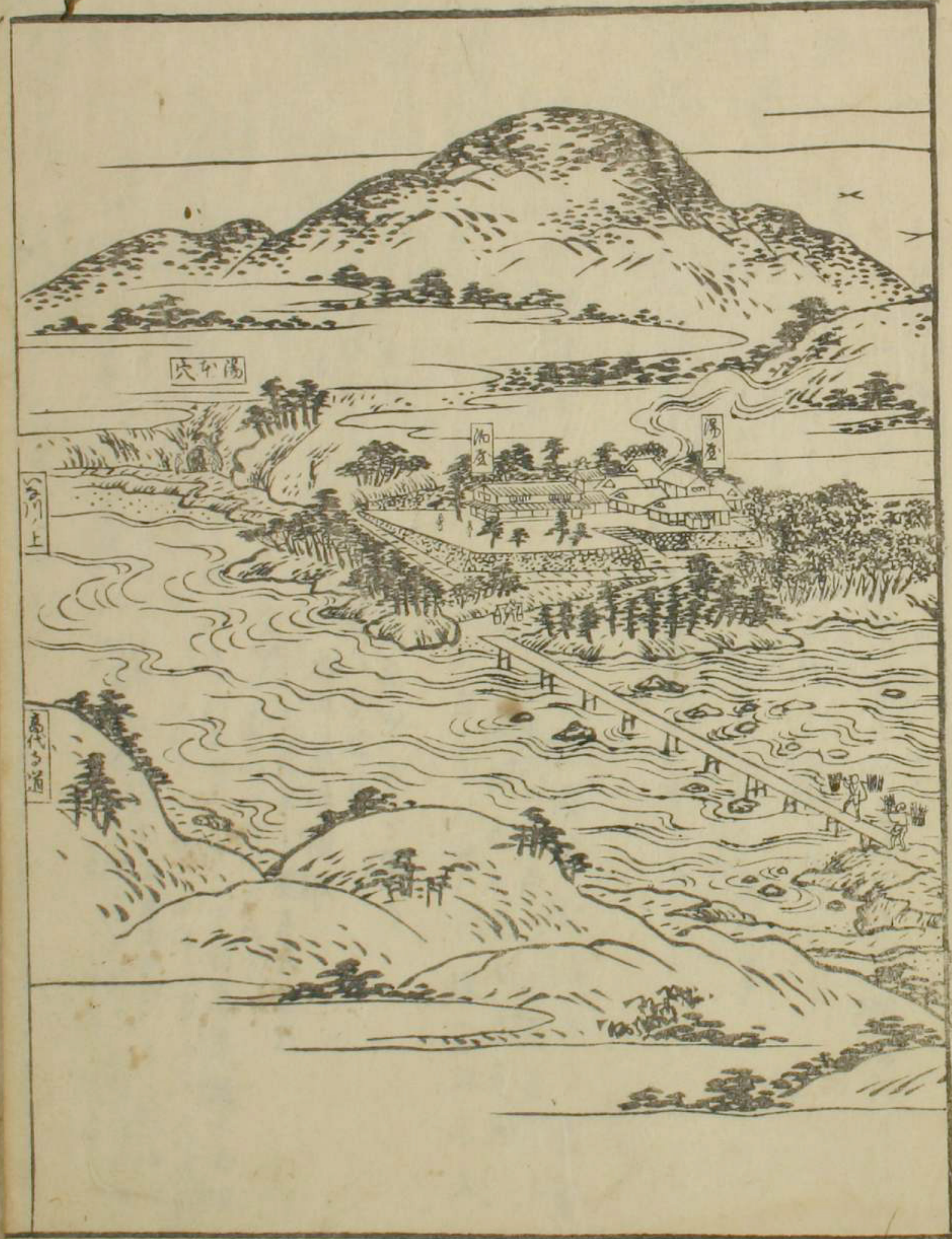
山下村あり礦山ありく小ありく岩反體一坑とて西金脚あり

一庫湯

多田莊一庫村の山中一庫川の側ありけり取金坑あり

名産一庫炭

豊前郡沱田の市に運送し此田炭の弊世に温と成
製送山中小炭電と作りく其中一生本炭四尺許に成く立双
枝炭と上ふ並てはより火とめくは電中火すんて又向ひ火とめ
切り火と入るは土より火とめくは電中火すんて又向ひ火とめ
切り火と入るは土より火とめくは電中火すんて又向ひ火とめ



善門寺

一庫村のり月光山と號す
眞言宗

本尊聖観音

百済國日羅の他長之尺
本堂の乾小あり頼光公瘧疾の時
本堂内小存財之と安候
加持水 宿快作正念の加持しり人蓋水く

二河大和滿義塔

本堂のまあり世多あり二河大和滿義弘安二年十月卒候
其孫三河大和頼氏
尚山日登り累年源家景致の古例
と暮ひ香花科小但繁徳寺小

千手院

尚山の境内あり
本尊千手観音
安候

銅山坑

柳田等の山中あり
名銀山と號す
松田藤太郎國師

银山村

一里許あり傳云大同年中ありと鑿く
銀と名あり

扇風巖

大井村あり
名の形扇風
立るに如く
敷六枚小大
あり
中十間
あり
流あり
多田川

の上あり
名上
街道あり
丹波
通あり
流あり
遠

裏扇風岩

日村の中あり
初の扇風岩より少し
小サ

鳥帽子岩

日村の山あり
形鳥帽子
名と名
又萬若村小

鬼ヶ門

洞窟の心あり
形石門の如し
一人かふ及ひし

波豆川

水原村あり
流は高平谷と号す
波豆村に至り
波豆川

攝六平田



八冊之内

28

